平成14年4月－平成14年12月研究業績目録

(前段：和文業績
後段：欧文業績)

院　　長
Director-General

学術雑誌に発表した総説

小林秀資．キレる子ども達に学ぶ－「思春期における暴力行為の原因究明と対策に関する研究」に取り組んで－．小児保健研究 2002 ; 61(4) : 543-51.

抄録のある学会報告

小林秀資，小林正子，加藤則子．思春期の<<キレる>>子どもの現状とその要因に関する一考察．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 662-3.

次　　長
Deputy Director-General

学術雑誌に発表した総説

林謙治．国立保健医療科学院の組織．保健医療科学 2002 ; 51(2) : 3-9.

林謙治．健康生態．公衆衛生 2002 ; 66(9) : 636.

林謙治．生活文化の意味論　保健活動の視点から．公衆衛生 2002 ; 66(10) : 716-8.

抄録のある学会報告

林謙治．バブル崩壊後の出生率低下．第67回日本民族衛生学会；2002. 11；東京．民族衛生2002 ; 68(付) : 22.

技術評価部
Department of Technology Assessment and Biostatistics

学術雑誌に発表した原著論文

川島眞，原田昭太郎，丹後俊郎．掻痒の程度の新しい判定基準を用いた患者日誌の使用経験．臨皮 2002 ; 56 : 692-7.

高橋美保子，丹後俊郎．我が国におけるインフルエンザ流行による超過死亡の評価－年齢階層別，死因別死亡による推定．日衛誌 2002 ; 57 : 571-84.

小嶋美穂子，辻元宏，丹後俊郎．滋賀県における栄養状況と栄養状況との関連．日公衛誌 2002 ; 49 : 352-60.

高嶋隆行，横山徹爾，二神創，大野京子，田中平三，所敬，望月學．強度近視患者の生活の質．日眼会誌 2002 ; 106 : 383-91.

大坪浩一．中心地理論の利用による人口動態統計(ベイズ推定値)の算出の試み．厚生の指標 2002 ; 49(10) : 1-6.

学術雑誌に発表した総説

丹後俊郎．メタ・アナリシス－エビデンスの統合を目指す．行動計量学 2002 ; 28 : 56-67.

山岡和枝．行動計量学とEvidence-based Medicine．行動計量学 2001 ; 28(2) : 39-43.

岡本悦司．レセプト審査点検のためのEBM入門⑬ 疑わしきは腫瘍マーカーに．国民健康保険 2002 ; 53(4) : 37-41.

岡本悦司．レセプト審査点検のためのEBM入門⑭ 眠れぬ夜のハルシオン．国民健康保険 2002 ; 53(5) : 44-9.

岡本悦司．レセプト審査点検のためのEBM入門⑮ ご利用は計画的に．国民健康保険 2002 ; 53(6) : 42-7.

岡本悦司．レセプト審査点検のためのEBM入門⑯ 一文惜しみの百銭失い．国民健康保険 2002 ; 53(7) : 44-9.

岡本悦司．レセプト審査点検のためのEBM入門⑰ ドクロマークのQ&A．国民健康保険 2002 ; 53(8) : 48-53.

岡本悦司．レセプト審査点検のためのEBM入門⑱ 保険診療のタテマエとホンネ．国民健康保険 2002 ; 53(9) : 49-53.

岡本悦司．レセプト審査点検のためのEBM入門⑲ ヘルスアップ事業の経済評価．国民健康保険 2002 ; 53(10) : 38-43.

岡本悦司．レセプト審査点検のためのEBM入門⑳ 血圧管理のプロジェクトX．国民健康保険 2002 ; 53(11) : 38-43.

岡本悦司．レセプト審査点検のためのEBM入門(21) キルべきかキラぬべきか．国民健康保険 2002 ; 53(12) : 37-41.

岡本悦司．保健医療技術評価へのレセプト情報の活用．

公衆衛生 2002 ; 66(12) : 886-7.

著　書

丹後俊郎．メタアナリシス入門－エビデンスの統合をめざす統計手法．医学統計学シリーズ No. 4. 東京：朝倉書店；2002.

丹後俊郎．医学データ－デザインから統計モデルまで．データ・サイエンスシリーズ No. 10．東京：共立出版；2002.

林文,山岡和枝．調査とデータ解析．東京：朝倉書店；2002.

山岡和枝．健康関連QOLにおよぼす性格特性の影響．柳井晴夫，岡太彬訓，繁桝算男，高木広文，岩崎学，編．多変量解析実例ハンドブック．東京：朝倉書店；2002. p.226-39.

山岡和枝．推定・検定など．林知己夫，編．社会調査ハンドブック．東京：朝倉書店；2002. p.127-30, 359-65, 409-12, 425-8, 474-86, 505-52.

横山徹爾．介入研究，疫学で用いられる統計学的方法とその解釈．日本疫学会 他，編．はじめて学ぶやさしい疫学－疫学への招待－．東京：南江堂；2002. p.61-6,75-86.

横山徹爾．疫学．眞野喜洋，編．スタンダード公衆衛生学．東京：文光堂；2002. p.111-7.

横山徹爾．衛生の主要指標．厚生統計協会，編．図説・国民衛生の動向 2002．東京：厚生統計協会；2002. p.27-46.

岡本悦司．保健医療論．岡本悦司，佐藤敏彦，中屋重直，編．サブノート保健医療論・公衆衛生学．東京：メディックメディア；2002. p.1-116.

岡本悦司．公費負担医療，差額ベッド，社会的入院，自由開業医制，傷病手当金，特定疾患医療費助成制度，特定療養費制度，難病医療費，保険外負担，保険診療，保険料．和田攻，南裕子，小峰光博,編．看護大辞典．東京：医学書院；2002.

抄録のある学会報告

山岡和枝，竹田雄一郎．健康関連QOL調査票の構造分析と評価尺度．2002年度統計関連学会連合大会；2002. 9；東京．

渡辺満利子，山岡和枝，横塚昌子，丹後俊郎．糖尿病予防のための栄養教育効果の計量．日本行動計量学会第30回大会；2002. 9. 19-21；東京．同論文抄録集．p.298-9.

山岡和枝，鄭躍軍，吉野諒三．健康観と信頼感．日本行動計量学会第30回大会；2002. 9. 19-21；東京．同論文抄録集．p.350-1.

山岡和枝．健康関連QOL測定におけるHRQOL20調査票の併存的妥当性の検討．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 325.

渡辺満利子，横塚昌子，山岡和枝，諸戸敬子，丹後俊郎．糖尿病予防のための新しい栄養教育評価．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 887.

一色亜希子，山岡和枝，中尾睦宏，矢野栄二．職域健康診断における自覚症状調査を利用した大うつ病診断の有効性．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 918.

横山徹爾．循環器疾患予防のための新しい栄養素，非栄養素成分，最近の疫学研究（コホート）から～ビタミンCと循環器疾患～．第37回日本循環器管理研究協議会総会・日本循環器病予防学会；2002. 5；東京．日循環器予防誌 2002. 04 ; 37(2) : 97.（シンポジウム）．

横山徹爾，横山顕，加藤抱一，辻仲利政，武藤学，大森泰，熊谷義也, 井垣弘康, 渡辺寛, 福田治彦．少量飲酒に伴うフラッシング反応と食道癌罹患リスク．第61回日本癌学会総会；2002. 10；東京．同学会61回総会記事．p.491.

横山徹爾，吉池信男，伊達ちぐさ，松村康弘，斎藤京子，松下由実，田中平三．血清ビタミンC濃度と死因別死亡・総死亡リスク－S市第2コホート．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．

齋藤京子，横山徹爾，吉池信男，松村康弘，伊達ちぐさ，山本昭夫，村松正明，田中平三．飲酒に伴うフラッシング反応と生活習慣との関連．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．

岡本悦司，田原康玄．全疾病分類による傷病別医療費割合の市町村間ならびに月間変動の分析．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．

岡本悦司．分散化と集中化－－保険診療からみた侵襲的治療のあり方．第2回日本心臓カテーテル治療学会学術集会；2002. 9；岡山.同学会抄録集．p.38.

大坪浩一．高齢者人口移動と医療福祉資源の地域集積からみた地域診断指標としての人口動態統計の評価．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 332.

猪狩和之，大坪浩一．産業保健を包含した地域医療計画の計画圏域の適正化に関する研究－一企業従業員の通勤圏分析による評価－．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 476.

猪狩和之，大坪浩一．厚生労働省の発足を基点とした労働基準監督署と保健所の圏域統合化の試案．第75回日本産業衛生学会；2002. 4. 9-12；神戸．産業衛誌 2002 ; 44(臨増) : 653.

大坪浩一．医療資源再配分のための計画医療圏の設定手法に関する研究－既存の生活行動圏調査結果のメタ分析を通じて－．第40回日本病院管理学会学術総会；2002. 11；北九州．病院管理 2002；39(Suppl) : 137.

その他学術報告（研究調査報告書含む）

丹後俊郎．厚生科学研究費補助金厚生科学特別研究事業「非加熱血液凝固因子製剤を使用した血友病以外の患者における肝炎ウイルス感染に関する調査研究」（主任研究者：島田馨.）平成13年度報告書；2002. 11.

視聴覚資料やディジタル媒体

岡本悦司．PDM（Proportional Disease Magnitude）法プログラム．厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学政策研究「レセプト情報利活用と個人情報保護のあり方」（主任研究者：小林廉毅.）平成14年度ディジタル媒体による研究成果（マニュアル付）；2002. 10. <CD-ROM>

Originals

Tango T. Score tests for detecting excess risks around putative sources. Stat Med 2002 ; 21 : 497-514.

Murata M, Miyake T, Inoue Y, Tango, T., et al. Life-style and other characteristics of radiation workers at nuclear facilities in Japan: Base-line data of a questionnaire survey. J Epidemiol 2002 ; 12 : 310-9.

Miyake K, Tango, T, Ota Y. et al. Efficacy of stronger neo-minophagen between two doses administered three times a week on patients with chronic viral hepatitis. J Gastroenterol Hepatol 2002 ; 17 : 1198-204.

Kawashima M, Harada S and Tango T. Review of fexofenadine in the treatment of chronic idiopathic urticaria. Int J Dermatol 2002 ; 41 : 701-6.

Tamiya N, Yamaoka K, Yano E. Use of home health services covered by new public long-term care insurance in Japan: impact of the presence and kinship of family caregivers. Int J Qual Health Care 2002 ; 14(4) : 295-303.

Yokoyama A, Kato H, Yokoyama T, Tsujinaka T, Muto M, Omori T, Haneda T, Kumagai Y, Igaki H, Yokoyama M, Watanabe H, Fukuda H, Yoshimizu H. Genetic polymorphisms of alcohol and aldehyde dehydrogenases and glutathione S-transferase M1 and drinking, smoking, and diet in Japanese men with esophageal squamous cell carcinoma. Carcinogenesis 2002 ; 23 : 1851-9.

Yokoyama A, Watanabe H, Fukuda H, Haneda T, Kato H, Yokoyama T, Muramatsu T, Igaki H, Tachimori Y. Multiple cancers associated with esophageal and oropharyngolaryngeal squamous cell carcinoma and the aldehyde dehydrogenase-2 genotype in male Japanese drinkers. Cancer Epidemiol Biomark Prev 2002 ; 11 : 895-900.

Miwa H, Sugiyama Y, Ohkusa T, Kurosawa A, Hojo M, Yokoyama T, Hamada T, Basyuda H, Sato N. Improvement of reflux symptoms 3 years after cure of Helicobacter pylori infection: a case-controlled study in the Japanese population. Helicobacter 2002 ; 7 : 219-24.

Book

Tanaka H, Iso H, Yokoyama T, Yoshiike N, Kokubo Y. Cerebrovascular disease. In: Detels R, McEwen J, Beaglehole R, Tanaka H, editors. Oxford textbook of public health. 4th ed. Oxford: Oxford University Press ; 2002. p.1193-226.

Okamoto E, Tatara K. Public Health of Japan 2002. 東京：日本公衆衛生協会；2002.

Proceedings with abstracts

Tango, T. A space-time model for excess environmental risks around putative sources based on small area data with many zero counts. The 2002 International Conference of the Royal Statistical Society ; 2002 Sep 3-6 ; University of Plymouth, UK. Abstracts. p.76. (Invited paper).

Yokoyama T, Date C, Yoshiike N, Matsumura Y, Saito K, Matsushita Y, Tanaka H. Serum Vitamin C concentration and long-term risk of death from stroke, heart disease, and cancer in a Japanese rural population: The Shibata Study Cohort II. XVI World Congress of Epidemiology ; Aug 2002 ; Montreal. Abstracts. WP123.

Saito K, Yokoyama T, Matsushita Y, Yoshiike N, Date C, Yamamoto A, Matsumura Y, Tanaka H. ADH2 genotype was strongly associated with prevalence of hypertension among male habitual drinkers in a Japanese rural population. XVI World Congress of Epidemiology ; Aug. 2002 ; Montreal. Abstracts. MP130.

Lwin H, Yokoyama T, Yoshiike N, Tanaka H. Homocysteine, life-styles, and 5, 10-Methylenetetrahydrofolate reductase gene (C677T MTHFR), in a Japanese rural population. XVI World Congress of Epidemiology ; Aug 2002 ; Montreal. Abstracts. MP126.

Okamoto E, Hata E, Hayashi K. Prescription drug cost inconsistent with primary diagnoses. Asia-Pacific Consortium of Public Health ; Jul 2002 ; Kuala Lumpul. Proceedings. p.37.

Okamoto E. Effects of add-on copayment of prescription drugs on drug use by disabled elderly. The 130th American Public Health Association ; Nov 2002 ; Philadelphia. Proceedings. p.172.

政策科学部
Department of Policy Sciences

学術雑誌に発表した原著論文

長谷川敏彦，松本邦愛，北村能寛，平尾智広．健康日本21のための疾病自然史に基づく健康指標の開発と都道府県別ベンチ・マーキング．国立医療・病院管理研究所紀 2002 ; (30) : 7-41.

相馬孝博，藤沢由和，長谷川敏彦．入院患者に対する誤

薬予防システム構築の考え方---病院内総合患者安全マネジメントシステムの一環として．医療マネジメント学会雑誌 2002 ; 3(2) : 284-8.

相馬孝博．医療安全から見た院内組織と機能．保健医療科学 2002 ; 51(3) : 131-6.

相馬孝博．入院患者に対する誤薬予防システム構築．保健医療科学 2002 ; 51(4) : 194-8.

相馬孝博．観血的診療に対する患者安全方策の導入---中心静脈カテーテル（CVC）留置関連項目を例とした問題点．保健医療科学 2002 ; 51(4) : 210-1.

学術雑誌に発表した総説

長谷川敏彦．外来の現在，未来，過去，そして展望．病院 2002 ; 61(5) : 358-64.

長谷川敏彦．消化器疾患におけるクリニカルパス　医療の質向上の国際的潮流．臨消内科 2002 ; 17(5) : 551-7.

長谷川敏彦．がん対策経済評価．綜合臨 2002 ; 51(9) : 2539-44.

長谷川敏彦．藤澤由和．医療事故をめぐる国際的潮流－IOM報告書を中心に－．カレントテラピー 2002 ; 20(6) : 92-6.

長谷川敏彦，藤澤由和．医療安全政策の国際動向とその方向性－総論．病院 2002 ; 6 (5) : 402-6.

長谷川敏彦，藤澤由和．医療安全政策の国際動向とその方向性－医療安全をめぐる新しい考え方．病院 2002 ; 6 (7) : 572-7.

長谷川敏彦．クリティカル・パスとは何か．Diabetes Fronti 2002 ; 13(4) : 444-9.

藤澤由和，長谷川敏彦．医療安全政策の国際動向とその方向性－報告システム．病院 2002 ; 6 (9) : 736-41.

相馬孝博，藤澤由和，長谷川敏彦．入院患者に対する誤薬予防システム構築の考え方－病院内総合的患者安全マネジメントシステムの一環として－．医療マネジメント学会雑誌 2002 ; 3 (2) : 284-8.

星野桂子．要介助でも介助なしの謎．看管理 2002. 4 ; 12(4) : 283.

星野桂子．「食事なし」でも配膳下膳されている．看管理 2002. 5 ; 12(5) : 367.

星野桂子．週に何回入浴できますか．看管理 2002. 6 ; 12(6) : 441.

星野桂子．どんな患者が入浴介助されるのか．看管理 2002. 7 ; 12(7) : 533.

星野桂子．調査報告書が間違っていた．看管理 2002. 8 ; 12(8) : 607.

星野桂子．母のない児と，児のない母と．看管理 2002. 9 ; 12(9) : 699.

星野桂子．手術と検査の境界線はどこ？看管理 2002. 10 ; 12(10) : 779.

星野桂子．二交替？三交替？変則三交替？看管理 2002. 11 ; 12(11) : 847.

著　書

長谷川敏彦．病院経営戦略．東京：医学書院；2002. 4.

相馬孝博（分担執筆）．EBMを実践できる外科医を目指そう．北米医学交流パスポート 2002．東京：はる書房；2002. p.307-14.

星野桂子．医療機関の社会的役割．看護のための最新医学講座35巻　医療と社会．東京：中山書店；2002. 11. p.87-95.

抄録のある学会報告

平尾智宏，藤澤由和，藤田尚，相馬孝博，長谷川敏彦．日本の入院患者の潜在医療事故事例に関する基礎的研究．第72回日本衛生学会総会；2002. 3. 26-29；津．日衛誌 2002 ; 57(1) : 285.

長谷川敏彦，藤澤由和，相馬孝博，長谷川友紀，河原和夫．医療事故発生率の国際メタ分析と日本での発生率推計の試み．第72回日本衛生学会総会；2002. 3. 26-29；津．日衛誌 2002 ; 57(1) : 284.

長谷川敏彦，堀容子，坂巻弘之，長谷川友紀．新定義による高血圧患者増が医療費に及ぼす影響に関する分析．第72回日本衛生学会総会；2002. 3. 26-29；津．日衛誌 2002 ; 57(1) : 283.

浅野昌彦，北村能寛，松本邦愛，藤田尚，長谷川友紀，長谷川敏彦．医療の質，効率，公平性評価の疾病管理的アプローチによる県別ベンチマーク評価の研究．第72回日本衛生学会総会；2002. 3. 26-29；津．日衛誌 2002 ; 57(1) : 282.

相馬孝博，藤澤由和，長谷川友紀，長谷川敏彦．病院組織を評価するための総合的臨床指標の位置づけ．第72回日本衛生学会総会；2002. 3. 26-29；津．日衛誌 2002 ; 57(1) : 225.

堀容子，松本邦愛，北村能寛，長谷川敏彦．官庁統計を用いたメタアナリシスによる高血圧患者数の推計．第72回日本衛生学会総会；2002. 3. 26-29；津．日衛誌 2002 ; 57(1) : 459.

渡辺智之，大森正子，宮尾克，大沢功，佐藤祐造．コホート生命表によるがんの世代別影響．第72回日本衛生学会総会；2002. 3. 26-29；津．日衛誌 2002 ; 57(1) : 458.

平尾智宏，福永一郎，實成文彦，長谷川敏彦．わが国における加齢に伴う障害率の推定．第72回日本衛生学会総会；2002. 3. 26-29；津．日衛誌 2002 ; 57(1) : 457.

北村能寛，松本邦愛，長谷川敏彦．マルチレベル分析による末期がん患者の死亡場所の決定要因分析第72回日本衛生学会総会；2002. 3. 26-29；津．日衛誌 2002 ; 57(1) : 319.

松本邦愛，堀容子，長谷川敏彦．健康日本21のための県別健康尺度の測定に関する研究．第72回日本衛生学会総会；2002. 3. 26-29；津．日衛誌 2002 ; 57(1) : 318.

藤澤由和，相馬孝博，長谷川敏彦．日本における医療事故動向の把握に関する定量的・定性的考察．第72回日本衛生学会総会；2002. 3. 26-29；津．日衛誌 2002 ; 57(1) : 286.

長谷川敏彦．結果マネジメントの国際的潮流．第105回日

本小児科学会学術集会；2002. 04. 20；名古屋．小児会誌 2002. 02 ; 106(2) : 141.

長谷川敏彦．呼吸器外科の将来展望．第19回日本呼吸器学会；2002. 05. 24 日呼外会誌 2002. 04 ; 16(3) : 289.

長谷川敏彦．これからの医療連携のあり方．第4回医療マネジメント学会学術総会；2002. 06. 28-29；京都．

堀容子，長谷川敏彦．降圧剤による高血圧症管理に関連する要因分析-国民生活基礎調査と国民栄養調査のリンクデータを用いて．第4回医療マネジメント学会学術総会；2002. 06. 28-29；京都．

長谷川敏彦，藤澤由和．英国における「患者安全マネジメントシステムの構築」に関する研究．第4回医療マネジメント学会学術総会；2002. 06. 28-29；京都．

石原明子，長谷川敏彦．精神病院の機能分類．第4回医療マネジメント学会学術総会；2002. 06. 28-29；京都．

長谷川敏彦．経営戦略の病院への応用．第4回医療マネジメント学会学術総会；2002. 06. 28-29；京都．

北村能寛，長谷川敏彦．診療所，医師，病院の役割分担と生産性に関する歴史的，地域的分析の試み．第4回医療マネジメント学会学術総会；2002. 06. 28-29；京都．

松本邦愛，長谷川敏彦．術前術後入院日数の時系列変化に関する研究：同一施設疾病別県別評価．第4回医療マネジメント学会学術総会；2002. 06. 28-29；京都．

浅野昌彦，北村能寛，松本邦愛，長谷川敏彦．Sentinel Diseaseによる連携臨床指標の開発．第4回医療マネジメント学会学術総会；2002. 06. 28-29；京都．

長谷川敏彦．病院経営の質と効率．全国病院経営管理学会，第39回医療経営講座；2002. 07. 25；東京．

長谷川敏彦．究極，究極，究極　そしてもう一つ　4つの究極から求められる病院経営戦略．医療マネジメント学会第7回医療連携セミナー；2002. 09. 14；東京．

長谷川敏彦．健康日本21計画の普及と評価に関する研究．平成14年度健康科学総合研究成果発表会；2002. 11. 13；東京．

長谷川敏彦．医療の質の評価と医療提供体制．第40回日本社会保険医学会総会；2002. 11. 14；横浜．

長谷川敏彦．報告制度，海外の現状．第32回日本医事法制医学会総会；2002. 12. 01；名古屋．

相馬孝博．医療機関内における誤薬予防システム構築に関する研究．第4回医療マネジメント学会総会；2002. 6；京都．医療マネジメント学会雑誌 2002 ; 3 (1) : 163.

高本和彦，馬場園明，佐藤昇樹，大田浩右．CT画像伝送による脳神経科広域診療ネットワークシステムの評価に関する研究(第二報)．第40回日本病院管理学会学術総会；2002. 11；北九州．病院管理 2002 ; 39(Suppl) : 211.

高本和彦，足立光平，小河孝則，福田清高．地域保健医療ネットワークシステム実運用下での患者と医師による評価．第22回 医療情報学連合大会（第3回日本医療情報学会学術大会）；2002. 11；福岡．同大会論文集．p.162-3.

高本和彦．Evidence-based healthcare and nutrition. 第24回日本臨床栄養学会；2002. 11；大阪．同講演要旨集．p.93-6.（教育講演）．

その他学術報告（研究調査報告書含む）

星野桂子，研究代表者. 医療機関におけるコ・メディカルの業務分担に関する研究報告書；2002. 3.

経営科学部
Department of Management Science

学術雑誌に発表した原著論文

山田修，立森久照，宮本有紀，伊藤弘人．診療報酬上の精神科包括病棟における看護スタッフの職業性ストレスの特徴．日精病協誌 2002 ; 21(6) : 647-51.

山田修，立森久照，宮本有紀，伊藤弘人．精神科看護スタッフの役職・資格の違いによる職業性ストレスの特徴．看展望 2002 ; 27 : 502-7.

伊藤弘人，瀬戸屋雄太郎．精神科稼動病床数の将来推計に関する分析．社会保険旬報 2002 ; (2135) : 18-22.

三宅由子，伊藤弘人，佐名手三恵，竹島正．精神保健福祉法第32条による通院医療費公費負担についてのレセプト調査．公衆衛生 2002 ; 66(3) : 191-5.

伊藤弘人．マサチューセッツ州におけるマネジドケアの精神療法への影響に関する予備的調査．日医師会誌 2002 ; 127(7) : 1083-8.

瀬戸屋雄太郎，立森久照，伊藤弘人，長沼洋一，栗田廣．精神科入院患者における行動および症状測定尺度BASIS-32日本語版の有用性．臨精医 2002 ; 31 : 571-5.

益子邦洋，有賀徹，上嶋権兵衛，山本修三，坂本哲也，井上徹英，鈴木荘太郎，梅里良正，伊藤弘人，前田幸宏．三次救急医療機関の機能を評価する指標の開発と今後の課題．日救急医会誌 2002 ; 13 : 769-78.

著　書

小山秀夫．介護保険．高野健人，伊藤洋子，河原和夫，川本俊弘，城戸照彦，中谷陽二，中山健夫，本橋豊，編．社会医学事典．東京：朝倉書店；2002. p.272-3.

小山秀夫．Ⅳ. ケアマネジメントをとりまく問題「医療費抑制問題」．白澤政和，渡辺裕美，福富昌城，編．福祉キーワードシリーズ　ケアマネジメント．東京：中央法規出版；2002. p.162-3.

伊藤弘人．精神科医療のストラテジー．東京：医学書院；2002.

伊藤弘人．医療評価．東京：真興交易医書出版部；2003.

西村秋生，他．Chapter 8. 糖尿病の予防とストレス・生活指導．細谷憲政，馬場茂明，監修．新しい糖尿病の食事・栄養療法．東京：チーム医療；2002. 110-20.

抄録のある学会報告

小山秀夫．介護保険施設における「グループ経営」状況並びに経営意識に関する研究．第40回日本病院管理学会学術総会；2002. 11；北九州．病院管理 2002 ; 39(Suppl) : 80.

小山秀夫．病院管理業務改善事例研究会（応募課題活動経過報告）．第40回日本病院管理学会学術総会；2002. 11；北九州．病院管理 2002 ; 39(Suppl) : 216.

伊藤弘人．抗精神病薬と心臓突然死に関する予備的検討．第16回日本神経救急学会学術集会；2002. 5. 11；東京．同学会学術集会抄録集．p.43.

西村秋生．要介護認定二次判定の変更事例に関する統計的検討－判別分析の適用について－．第40回日本病院管理学会学術総会；2002. 11；北九州．病院管理 2002 ; 39(Suppl) : 153.

朱庸善, 長澤泰, 筧淳夫, 西村秋生．精神疾患患者の場所選択的行動－精神疾患患者の行動からみた物的環境の整備に関する研究－．第40回日本病院管理学会学術総会；2002. 11；北九州．病院管理 2002 ; 39(Suppl) : 143.

鄭佳紅, 藤林慶子, 西村秋生, 小山秀夫．病院経営指標と病院幹部職員の経営管理に関する意識－経営管理技法に関する病院幹部職員意識調査より－．第40回日本病院管理学会学術総会；2002. 11；北九州．病院管理 2002 ; 39(Suppl) : 130.

その他学術報告（研究調査報告書含む）

小山秀夫，主任研究者．長寿科学総合研究事業「高齢者保健・医療・福祉サービス提供機関におけるマネジメントに関する実態分析並びに理論構築に関する研究」平成13年度総括研究報告書；2002. p.1-210.

小山秀夫，主任研究者．厚生労働省老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業「心身の状況に関するアセス手法の効率的な施策に関する手法開発事業」平成13年度報告書；2002. p.1-112.

伊藤弘人，他．各施設における臨床評価指標の予測値を用いたrisk adjustmentについて．厚生科学研究費補助金21世紀型医療開拓推進研究事業「院内の疾病登録を利用した心筋梗塞及び脳卒中の治療方針等の向上に関する研究」（主任研究者：有賀徹.）平成13年度研究報告書；2002. p.93-100.

伊藤弘人．精神科病院入院患者の転倒に関する分析．厚生科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療安全推進のための教育・研修システムの開発研究」（主任研究者：橋本廸生.）平成13年度研究報告書；2002. p.39-40.

岸本年史，伊藤弘人，繁田雅弘，新貝憲利，竹林和彦，西山正徳，樋口進．給付費等臨時補助金介護円滑導入対策事業「介護保険における痴呆患者のケアの実態と評価に関する調査研究」（主任研究者：岸本年史.）平成13年度広報啓発事業報告書．健康保険組合連合会；2002.

伊藤弘人，竹島正．精神病院等の長期データの解析．厚生科学研究費補助金 障害保健福祉総合研究事業「精神病院・社会復帰施設等の評価および情報提供のあり方に関する研究」（主任研究者：竹島正）平成13年度研究報告書；2002. p13-9.

Originals

Ito H. A preliminary study of impact of managed care on psychotherapy in Massachusetts. JMAJ 2002 ; 45 : 396-402.

Mayahara K, Ito H. Readmission of discharged schizophrenic patients with and without day care in Japan. Int Med J 2002 ; 9 : 121-3.

Miyamoto Y, Ito H, Otsuka T, Kurita H. Caregiver burden in mobile and non-mobile demented patients: a comparative study. Int J Geriatr Psychiatry 2002 ; 17 : 765-73.

Proceedings with abstracts

Murakami M, Tomimatsu M, Kawabuchi K, Ito H. Contributing factors to inpatient global functioning: A preliminary study. XII World Congress of Psychiatry ; 2002 Aug 28 ; Yokohama. Abstracts of the XII World Congress of Psychiatry 2002 ; Vol. 2. p.17-8.

人材育成部
Department of Human Resources Development

学術雑誌に発表した原著論文

兵井伸行．健康づくりの実践モデル－PCM（プロジェクト・サイクル・マネイジメント）について．健康づくり 2002 ; 292 : 12-5.

学術雑誌に発表した総説

西田茂樹，鈴木晃，平野かよ子，岩永俊博．教育研修の経過 専門課程・専攻課程 1998-2001．公衛研 2002；51(特別企画号)：21-6.

兵井伸行．国際協力室 1998-2001．公衛研 2002；51(特別企画号)：114-7.

星野桂子．やっぱり「看護」のデータは難しい．看管理 2002. 12 ; 12(12) : 945.

著　書

西田茂樹．医療の進歩と寿命の限界．日本人口学会 編．人口大事典．東京：培風館；2002. p.548-53.

兵井伸行．東南アジア地域の人口政策．日本人口学会 編．人口大事典．東京：培風館；2002. p.883-7.

兵井伸行．国際保健．尾崎米篤，鳩野洋子，島田美喜 編．

いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.22-25.

兵井伸行．PCM（プロジェクト・サイクル・マネイジメント）．尾崎米篤，鳩野洋子，島田美喜 編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.128-31.

星野桂子．医療機関の社会的役割．看護のための最新医学講座35巻医療と社会．中山書店．2002 ; 87-95.

その他学術報告（研究調査報告書含む）

兵井伸行．迅速評価や参加型評価法の適用に関する研究．厚生科学研究費補助金社会保障国際協力推進研究事業「保健医療プロジェクトの事前・中間評価に関する研究」（研究代表者：三好明.）平成13年度総括・分担研究報告書；2002. p.56-8.

兵井伸行．参加型モニタリング・評価のための指標開発に関する研究．厚生科学研究費補助金社会保障国際協力推進研究事業「保健医療プロジェクトの事前・中間評価に関する研究」（研究代表者：三好明.）平成13年度総括・分担研究報告書；2002. p.59-64.

内山巌雄，丹後俊郎，兵井伸行，佐々木照彦．ライフスタイルからみた温暖化の影響への適応と健康リスクの予防に関する研究．環境省地球環境研究総合推進事業「温暖化による健康影響と環境変化による社会の脆弱性の予測と適応によるリスク低減化に関する研究」(研究代表者：内山巌雄.) 平成11年度～平成13年度終了研究報告書；2002. p.84-104.

星野桂子，研究代表者．医療機関におけるコ・メディカルの業務分担に関する研究報告書；2002.

綿引信義，西田茂樹．近年の自殺による死亡率の実態に関する人口学的研究．「地域における自殺防止対策と自殺防止支援に関する研究」（総括研究者：上畑鉄之丞，平野かよ子.）平成13年度報告書；2002. p.70-86.

西田茂樹．食中毒様症状の実態調査．厚生労働省生活安全総合研究事業「食中毒予防対策のあり方に関する研究」（主任研究者：玉木武.）平成13年度報告書；2002.

Proceedings with Abstracts

Owang M M, Hyoi N, Hata E. A study on factors that are associated with condom use in the scope of behavior change for the prevention of HIV/AIDS among secondary school and university students in Nairobi, Kenya. Japan Association of International Health ; Aug 2002 ; Kobe. Journal of the Japan Association of International Health 2002 ; 16 (Suppl) : 228.

公衆衛生政策部
Department of Public Health Policy and Administration

学術雑誌に発表した原著論文

瀬上清貴．国立保健医療科学院の誕生，今後の抱負と研究内容：公衆衛生政策部．保健医療科学 2002 ; 51(2) : 33-5.

大藤敏，山浦晶，小川秀興，税所宏光，藤澤武彦，加納達二，森田茂穂，安原洋，久保政勝，笠原洋勇，舘野昭彦，岡田進，蒲田孝代，北村明，福武公子，山下洋一郎，丸山昌一，及川憲夫，一宮なほみ，村田長生，瀬上清貴，川本健，上村修，中村明久．医療関係裁判運営協議会［第2回］．判例タイムズ 2002 ; 1076（2月1日号）.

小宮愛恵，曽根智史，矢野裕子，蒲池世史郎，深井穫博，坪田眞，安部一紀，小川孝雄，西野宇信，中村修一．ネパールにおける口腔保健専門家の養成プロジェクトに対する評価．九州歯科学会雑誌 2002 ; 56(4) : 152-61.

田中和美，河西あかね，高橋みね，中島弘美，吉實みちる，宇津木恵，竹内祐子，張永紅，守田孝恵，曽根智史，武村真治．地域保健事業の広報活動における効果的なチラシに関する研究．保健婦誌 2002 ; 58(6) : 500-5.

武村真治，大井田隆，杉浦裕子，曽根智史，石井敏弘．都道府県保健所の市町村支援機能に対する市町村の評価の変化．厚生の指標 2002 ; 49(13) : 21-6.

著　書

瀬上清貴，橋本修二，横山徹爾，他　編著．図説・国民衛生の動向2002．東京：厚生統計協会；2002.

曽根智史，他著．大久保利晃，監修．事例から学ぶ産業保健の実務，第3集，メンタルヘルス編．東京：労働調査会；2002.

曽根智史．ヘルスプロモーション，プライマリヘルスケア，ヘルシーシティ，エンパワメント，アドボカシー．尾崎米厚，鳩野洋子，島田美喜，編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.41-57.

抄録のある学会報告

曽根智史，田口眞，中野修治，堀江正知，広部一彦．事業場における在職者の性別死亡率と性・年齢階級別死因（サンユー会学術QQプロジェクト，2000年）．第75回日本産業衛生学会；2002. 4；神戸.

中野修治，田口眞，曽根智史，堀江正知，広部一彦．事業場における在職者の死因と健康診断結果との関連（サンユー会学術QQプロジェクト，2000年）．第75回日本産業衛生学会；2002. 4；神戸.

瀬上清貴．47都道府県及び米国50州における同一年齢階層毎の虚血性心疾患死亡率の地域間分布及びSALT関連指標の検討．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 199.

曽根智史，大井田隆，武村真治，劔陽子．わが国の妊産婦の喫煙状況に関する研究（全国調査，2001年度）．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 345.

越田美穂子，岩月優和，三輪哲，富田康子，竹原めぐみ，

稲岡由美子，平川恵，岡山美穂，曽根智史，久松由東，守田孝恵．高齢者福祉施設における情報伝達の促進・阻害要因に関する研究－「疥癬対応マニュアル」の活用状況調査から－．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 211.

平野かよ子，曽根智史，鳩野洋子，島田美喜，三砂ちづる．21世紀に活躍する公衆衛生従事者の資質の向上方策に関する国際比較研究．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 469.

森兼真理，曽根智史．国立カンボジア母子保健センターにおける妊産婦保健指導の評価．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 950.

武村真治，宮川清誇．コンジョイント分析を用いた、たばこに対する喫煙者の選好構造の解明．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 374.

杉浦裕子，武村真治，大井田隆．全国の保健所・市町村における健康危機管理機能の実態．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 463.

Originals

Kitajima T, Ohida T, Harano S, Kamal AMM, Takemura S, Nozaki N, Kawahara K, Minowa M. Smoking behavior, initiating and cessation factors among Japanese nurses: a cohort study. Public Health 2002 ; 116 : 347-52.

Terai M, Niwa K, Nakazawa M, Tatsuno K, Segami K, Hamada H, Kohno Y, Oki I, Nakamura Y. Mortality from congenital cardiovascular malformations in Japan, 1968 through 1997. Circ J 2002 ; 66(5) : 484-8.

Proceedings with Abstracts

Sone T, Ohida T. Smoking behavior and exposure to environmental tobacco smoke among pregnant women in Japan: A nationwide survey, 2002. 130th American Public Health Association Annual Meeting and Exposition; Nov 2002; Philadelphia.

Ohida T, Sone T. Smoking among Japanese nursing students: A nationwide survey. 130th American Public Health Association Annual Meeting and Exposition; Nov 2002; Philadelphia.

疫学部
Department of Epidemiology

学術雑誌に発表した原著論文

熊本悦明，塚本泰司，利部輝雄，赤座英之，野口昌良，高杉豊，守殿貞夫，碓井亞，香川征，内藤誠二，簑輪眞澄，谷畑健生，澤畑一樹．日本における性感染症（STD）サーベイランス―2001年度調査報告．日性感染症会誌 2002 ; 13 : 147-67.

川南勝彦，簑輪眞澄，岡山明，上島弘嗣，NIPPON DATA 80研究グループ．喫煙習慣の全死因，がん，肺がん死亡への影響に関する研究：NIPPON DATA．日衛誌 2003 ; 57 : 669-73.

藤田利治．人口動態統計からみたSIDSの現状．日SIDS会誌 2002 ; 2 (1) : 55-61.

沼田久美子，藤田利治．新宿区の結核患者における治療中断の関連要因と Directly Observed Therapy の意義．日公衛誌 2002 ; 49 : 58-63.

渡辺由美，三浦宜彦，藤田利治，簑輪眞澄．肝がん死亡の地理分布と年次推移．厚生の指標 2002 ; 49(6) : 1-7.

中井義勝，久保木富房，野添新一，藤田利治，久保千春，吉政康直，稲葉裕，中尾一和．摂食障害の臨床像についての全国調査．心身医学 2002 ; 42 : 729-37.

田口幸子，松下央，川南勝彦．虎の門病院における悪性腫瘍患者の登録及び予後追跡調査について．共済医報 2002 ; 52(1) : 53-8.

学術雑誌に発表した総説

簑輪眞澄．疫学部1988-2001. 公衛研 2002 ; 51(特別企画号) : 49-58.

簑輪眞澄．国立保健医療科学院の誕生，今後の抱負と研究内容；疫学部．保健医療科学．2002 ; 51(2) : 36-8.

藤田利治．公衆衛生従事者による有意義な疫学調査の実施．保健婦誌 2002 ; 58(5) : 368-74.

土井由利子，上畑鉄之丞，畑栄一，簑輪眞澄，望月友美子，Ichiro Kawachi．国立保健医療科学院における行動科学教育の取組み．日公衛誌 2002 ; 49 : 897-901.

土井由利子．日本における睡眠障害の疫学．Pharm Med 2002 ; 20 (Suppl 睡眠学の総説 - 眠りの総合科学をめざして～日本学術会議の提言をうけて～) : 83-7.

三砂ちづる．“産む経験”，“生まれる経験”のもたらすもの－出産のEBMとその可能性－．鹿児島県母性衛生会誌 2002 ; 7 : 1-3.

三砂ちづる．「産むこと」にむきあって「生きる」．生存科学A 2002 ; 12 : 95-106.

三砂ちづる．周産期看護に対する要望―女性の心に添うケアと一貫したオリエンテーションを．周産期医 2002 ; 32(10) : 1390-4.

マースデン・ワグナー，三砂ちづる．助産婦の研究はお産の真実を語る．助産婦誌 2002 ; 56(6) : 502-6.

著　書

簑輪眞澄，土井由利子．日本人の睡眠問題とその調整法．早石修，監修．井上昌二郎，編著．快眠の科学．東京：朝倉書店；2002. p.2-10.

土井由利子．母子保健の現状と動向．鈴木庄介，久道茂．シンプル衛生公衆衛生学2002年版．東京：南江堂；2002. p.186-92.

土井由利子．評価尺度　評価尺度の適正と使用法．睡眠障害の診断・治療ガイドライン研究会編．睡眠障害の対応と治療ガイドライン．東京：じほう；2002. p.225-37.

川南勝彦．健康危機管理．尾崎米厚，鳩野洋子，島田美喜，編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.120-5.

三砂ちづる．ラップ（RAP-Rapid Anthropological Assessment Procedure）．尾崎米厚，鳩野洋子，島田美喜，編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.145-8.

抄録のある学会報告

簑輪眞澄，川南勝彦，坂田清美，新城正紀，永井正規．２年後の追跡状況の総括，難病患者の地域ベースコホート研究．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 568.

簑輪眞澄，谷畑健生，松本美富士，倉恒弘彦．医療機関外来受診者の疲労についての研究．第12回日本疫学会学術総会；2002. 1；東京．J Epidemiol 2002 ; 12(1 Suppl) : 183.

眞崎直子，吉村晧子，川南勝彦，簑輪眞澄，尾形由紀子．難病患者の地域ベース・コーホート研究，神経難病患者のQOLの変化と保健福祉サービスのニーズ．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 255.

北島智子，簑輪眞澄, 横山英世，三宅健夫，原野悟，鈴木まき，大井田隆．看護婦の喫煙行動に関するコホート研究．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 344.

三徳和子，川南勝彦，簑輪眞澄．筋萎縮性側索硬化症患者の医療処置の変化とQOLの関連，難病患者の地域ベースコホート研究．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 568.

尾形由紀子，川南勝彦，簑輪眞澄，坂田清美，新城正紀，永井正規．難病患者の地域ベースコーホート研究；パーキンソン病患者を中心に．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 569.

邱冬梅，川南勝彦，谷畑健生，簑輪眞澄，梅家模，稲葉裕．中国江西省における脳血管疾患死亡に関するコホート研究．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 607.

藤田利治．病院報告及び患者調査を用いた精神疾患にかかわる長期在院の関連要因の検討．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 200.

藤田利治．精神疾患での在院期間の年次推移：1975～1999年．第67回日本民族衛生学会総会；2002. 11. 14-15；東京．民族衛生 2002 ; 67(Suppl) : 28-9.

渡辺ゆかり，藤田利治．福岡県における精神障害者の受領件とその関連要因．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 813.

土井由利子，簑輪眞澄．睡眠障害の再現性に関する疫学研究－首都圏職域集団における睡眠と健康調査より－．第12回日本疫学会学術総会；2002. 1. 25；東京．

丹後俊郎，藤田利治，谷畑健生，簑輪眞澄，土井由利子，内山巌雄，田中勝，国包章一，加藤則子，池口孝，上畑鉄之丞．ごみ焼却施設周辺におけるダイオキシン汚染に起因する周産期の健康影響．第12回日本疫学会学術総会；2002. 1. 25；東京．

土井由利子．健康増進施策における心理社会的要因．第72回日本衛生学会；2002. 3. 26-29；津．（ワークショップII）．

土井由利子．日常生活における快適な睡眠の確保‐．一般成人における睡眠障害の全国調査．第27回日本睡眠学会；2002. 7. 5；仙台．（シンポジウムIII）．

土井由利子，簑輪眞澄．一般勤労者における不眠と健康関連事象との関連について．第27回日本睡眠学会；2002. 7. 5；仙台．

土井由利子，尾方克巳．痴呆高齢者を支える取り組み‐痴呆性老人を介護する者の精神的健康．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．（ミニシンポジウム）．

土井由利子，簑輪眞澄，加藤紀久，高橋満．企業勤労者における不眠と健康関連事象に関する研究．第10回産業ストレス学会；2002. 12. 6；東京．

川南勝彦．難病患者に共通の主観的QOL尺度の検討と基準関連妥当性．第72回日本衛生学会総会；2002. 3. 26-29；津．日衛誌 2002 ; 57(1) : 231.

関根道和, 山上孝司, 川南勝彦, 鏡森定信．小学４年生の社会環境と肥満に関連する生活習慣との関連性　富山出生コホート研究の結果より．第72回日本衛生学会総会；2002. 3. 26-29；津．日衛誌 2002 ; 57(1) : 246.

関根道和, 山上孝司, 川南勝彦, 鏡森定信．社会環境要因と小学４年生時の肥満．富山出生コホート研究の結果より．第72回日本衛生学会総会；2002. 3. 26-29；津．日衛誌 2002 ; 57(1) : 245.

浜地祐子，三砂ちづる，村本淳子，落合正浩，山下成人．紀南地域の出産はEBMにもとづいているか？－出産に関するRAP調査の結果から－．第48回東海公衆衛生学会学術大会；2002. 7；津．同大会講演集．p.72.

山下成人，川辺伊公子，玉置良二，三砂ちづる，村本淳子，落合正浩．「イキイキ暮らす」をどう調査し，実現するか？－紀南地域の健康に関する横断研究とRAP調査の結果から．第48回東海公衆衛生学会学術大会；2002. 7；津．同大会講演集．p.73.

永井寄子，三砂ちづる，福島富士子．フォーカス・グループ・インタビューにおけるファシリテーターの質―「女子

高校生の食に関する意識について」を事例として．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 386.

平野かよ子，曽根智史，鳩野洋子，島田美喜，三砂ちづる．21世紀に活躍する公衆衛生従事者の資質の向上方策に関する国際比較研究．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 469.

山下成人，村本淳子，落合正浩，三砂ちづる．広域的システムを機能させるために，どう地域課題の核心をとらえるか？－紀南地区．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 386.

三砂ちづる，村本淳子，浜地祐子，落合正浩，山下成人．紀南地域生活者起点の健康実態調査―出産に関する調査―．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 642.

竹内正人，三砂ちづる，福島富士子，小林秀資．フィンランドにおける出産ケアサービス－Social Obstetricsという概念―．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 644.

三砂ちづる．どのようにして信頼できるデータを収集するか？－母子保健・リプロダクティブヘルス分野の研究におけるインタビューアートレーニングの可能性－．第67回日本民族衛生学会総会；2002. 11. 14-15；東京．民族衛生 2002 ; 67(Suppl) : 74-5.

中窪優子，三砂ちづる．助産所における会陰裂傷の実態．第17回日本助産学会学術集会；2003. 3；沖縄．同学会講演集．p.226-7.

三砂ちづる．看護のヒューマニゼーション．第2回東邦大学看護研究会；2002. 12. 13；東京．（シンポジウム）．

谷畑健生，尾崎米厚，青山旬，川南勝彦．保健所におけるたばこ対策実施状況．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 480.

丹後俊郎，藤田利治，谷畑健生，他．ゴミ焼却施設周辺におけるダイオキシン汚染に起因する周産期の健康影響．第12回日本疫学会学術総会；2002. 1；東京．J Epidemiol 2002 ; 12(1 Suppl) : 50.

谷畑健生，簑輪眞澄，松本美富士，倉恒弘彦．慢性疲労は鬱状態および睡眠問題と関連するか．第12回日本疫学会学術総会；2002. 1；東京．J Epidemiol 2002 ; 12(1 Suppl) : 91.

その他学術報告（研究調査報告書含む）

簑輪眞澄．カドミウム環境負荷量に関する研究；廃棄物からのカドミウムによる環境負荷．環境保健レポート 2002 ; (68) : 194-201.

簑輪眞澄，主任研究者．厚生科学研究費補助金健康科学総合研究事業「小中学校における喫煙防止教育の標準化とその評価」平成13年度研究報告書 ; 2002.

簑輪眞澄，中川秀昭，西条旨子，藤田利治，他．カドミウム汚染地域住民における近位尿細管障害の予後調査：研究計画．「イタイイタイ病及び慢性カドミウム中毒等に関する総合研究」（主任研究者：簑輪眞澄）平成13年度研究班総会資料；2002. p.224-30.

藤田利治，主任研究者．精神疾患の受療患者率の年次推移：1974年～1999年．科学研究費補助金（基盤研究©(2)）平成12年度から平成13年度研究成果報告書；2002. p.1-16.

藤田利治，主任研究者．精神疾患についての退院事由別退院率の年次推移：1974年～1999年．科学研究費補助金（基盤研究©(2)）平成12年度から平成13年度研究成果報告書；2002. p.17-32.

藤田利治，主任研究者．精神病床における長期在院にかかわる保健指標の年次推移：1973年～1999年．科学研究費補助金（基盤研究©(2)）平成12年度から平成13年度研究成果報告書；2002. p.33-46.

藤田利治，主任研究者．精神疾患の在院期間の年次推移：1975年～1999年．科学研究費補助金（基盤研究©(2)）平成12年度から平成13年度研究成果報告書；2002. p.47-61.

渡辺ゆかり，藤田利治．福岡県における精神障害者の受療圏とその関連要因．科学研究費補助金基盤研究©(2)（主任研究者：藤田利治.）平成12年度から平成13年度研究成果報告書；2002. p.62-72.

丹後俊郎，藤田利治，上畑鉄之丞．ごみ焼却施設周辺住民の人口動態調査票の収集と住所情報の地理的解析に関する研究．厚生科学研究費補助金 生活安全総合研究事業「ごみ焼却施設周辺におけるダイオキシン汚染に起因する周産期の健康影響に関する疫学研究」（主任研究者：上畑鉄之丞＜課題番号H11-生活-003＞）平成13年度報告書；2002. p.7-17.

丹後俊郎，藤田利治，簑輪眞澄，加藤則子，土井由利子，上畑鉄之丞．ごみ焼却施設周辺における周産期の健康影響の総合的な統計解析に関する研究．厚生科学研究費補助金生活安全総合研究事業「ごみ焼却施設周辺におけるダイオキシン汚染に起因する周産期の健康影響に関する疫学研究」（主任研究者：上畑鉄之丞＜課題番号H11-生活-003＞）平成13年度報告書；2002. p.55-67.

土井由利子．厚生省精神神経疾患研究委託費「睡眠傷害の診断・治療ガイドライン研究」（主任研究者：内山真.）平成13年度報告書；2002.

土井由利子．厚生科学研究費補助金厚生科学特別研究事業「未成年者の喫煙および飲酒行動に関する全国調査」（修正版）（主任研究者：上畑鉄之丞.）平成12年度報告書；2002.

川南勝彦, 簑輪眞澄, 永井正規, 他．追跡結果の総括－難病患者の地域ベース・追跡（コホート）研究－．厚生科学研究特定疾患対策研究事業「特定疾患の疫学に関する研究」（主任研究者：稲葉裕.）平成13年度研究業績集；2002. p.153-7.

川南勝彦, 簑輪眞澄, 永井正規, 他．行政資料による難病の頻度調査．厚生科学研究特定疾患対策研究事業「特定疾患の疫学に関する研究」（主任研究者：稲葉裕.）平成13年度研究業績集；2002. p.207-9.

三砂ちづる．Transforming Birthing Experience 変革につながるような出産経験－「満足」,「快適」を超えて

EBMと出産のヒューマニゼーション－より女性の力を高めるケアを目指して－．第三回出産のヒューマニゼーション研究会；2002. p.6-11.

Wagner M, 三砂ちづる．厚生科学研究子ども家庭総合研究推進事業「妊娠，出産状況がADHDの発生に及ぼす影響－バースコホート研究デザイン―」（主任研究者：小林秀資．）平成13年度研究実績報告書；2002. p.84-132.

谷畑健生，藤田利治，三浦宣彦．自殺に関わる保険統計資料の整備に関する研究．「地域における自殺防止対策と自殺防止支援に関する研究」（主任研究者：上畑鉄之丞．）平成13年度報告書；2002.

谷畑健生，青山旬，川南勝彦．都道府県策定の健康日本21地方計画および保健所におけるたばこ対策とその評価．「都道府県，市町村の健康日本21地方計画および保健所におけるたばこ対策実施状況とその評価研究」（主任研究者：谷畑健生．）平成13年度報告書；2002.

谷畑健生．高齢者の寝たきりに至るプロセス．市町村保健活動研修会（主任研究者：谷畑健生．）平成13年度報告書；2002.

視聴覚資料やデジィタル媒体

簑輪眞澄監修．喫煙と健康．大修館；2002. ＜ビデオ＞

Originals

Qiu D, Tanihata T, Aoyama H, Fujita T, Inaba Y, Minowa M. Relationship between a high mortality rate and extreme heat during the summer of 1999 in Hokkaido Prefecture, Japan. J Epidemiol 2002 ; 12 : 254-7.

Kitajima T, Oida T, Harano S, Kamal A.M.M, Takemura S, Nozaki N, Kawahara K, Minowa M. Smoking behavior, initiating and cessation factors among Japanese nurses: A cohort study. Public Health 2002 ; 116 : 347-52.

Fujita T. Sudden infant death syndrome in Japan 1995-98. Forensic Sci Int 2002 ; 130S : S71-7.

Sawaguchi A, Sawaguchi T, Fujita T, Matoba R, Sturner W. Research for improving the autopsy rate for infant death: medical economic assessment of the forensic autopsy system in Japan. Forensic Sci Int 2002 ; 130S : S91-5.

Sawaguchi A, Sawaguchi T, Fujita T, et al. Japanese national SIDS project：R：1998-2000 research for the improvement of infant mortality. Forensic Sci Int 2002 ; 130S : S1-S7.

Qiu D, Tanihata T, Aoyama H, Fujita T, Inaba Y, Minowa M. Relationship between a high mortality rate and extreme heat During the summer of 1999 in Hokkaido Prefecture, Japan. J Epidemiol 2002 ; 12 : 254-7.

Doi Y, Minowa M, Fujita T. Excessive daytime sleepiness and its associated factors among male non-shift white-collar workers. J Occupat Health 2002 ; 44 : 145-50.

Proceedings with abstracts

Misago C. Transforming Birthing Experience (TBE) - a key to a dynamic spiritual state of their body? - Inter-Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Science 2002 ; Sep 2002 ; Tokyo. Proceedings ; 2002. p.22-7.

Malumo SMV, Misago C, Kato N. The study of factors contributing to maternal death in Lusaka district, Zambia using qualitative approach. The 67th Congress of the Japanese Society of Health and Human Ecology ; Nov 2002 ; Tokyo. Proceedings ; 2002. p.14-5.

公衆衛生看護部
Department of Public Health Nursing

学術雑誌に発表した原著論文

山田和子，野田順子．保健所保健師が支援した子ども虐待事例に関する研究―全国保健所を対象とした調査より―．小児保健研 2002 ; 61(4) : 568-76.

田中和美，河西あかね，高橋みね，中島弘美，吉實みちる，宇津木恵，竹内祐子，守田孝恵，曽根智史，武村真治．地域保健事業の広報活動における効果的なチラシに関する研究．保健婦誌 2002 ; 58(6) : 500-5.

岡本玲子，中山貴美子，長畑多代，鳩野洋子，佐藤由美，島田美喜，岡部明子，飯吉令枝，他．保健師が関わるニーズとケアマネジメント過程の特徴－難病事例の場合－．日地域看護会誌 2002 ; 4 (1) : 18-25.

中山貴美子，岡本玲子，塩見美抄，岩本早織，鳩野洋子．介護予防アセスメントツールの開発．神戸大医保健紀 2002 ; 18 : 43-53.

学術雑誌に発表した総説

山田和子．改めて考える地域保健における「看護管理」．保健婦誌 2002 ; 58(7) : 553.

山田和子．書評「新世紀の小児保健」．小児保健研 2002 ; 61(4) : 618.

山田和子．活動事例からみた地域活動－地域活動の展開方法を中心に－．公衆衛生 2002 ; (10) : 760-3.

守田孝恵．「グループづくり」から「地域づくり」へのプロセス．保健婦誌 2002 ; 58(8) : 686-9.

岡本玲子，鳩野洋子，中山貴美子．EBNを取り入れた保健婦・士活動を考える．保健婦誌 2002 ; 58(1) : 48-57.

鳩野洋子．オーストラリアのコミュニティ・ナースはどの

ような活動をしているか．保健婦誌 2002 ; 58(5) : 402-6.
鳩野洋子．コミュニティ・ナースの活動と求められる能力．保健婦誌 2002 ; 58(6) : 494-8.
九島久美子，長谷部史乃，鳩野洋子，渡部純子．訪問看護ステーションにおける現任研修のあり方を考える．訪問看と介護 2002 ; 7 (12) : 975-82.

著　書

平野かよ子．EBMあるいはEBPH．尾崎米厚，鳩野洋子，島田美喜，編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.11-2.
平野かよ子．公衆衛生看護活動モデル．尾崎米厚，鳩野洋子，島田美喜，編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.132-3.
山田和子．児童虐待．尾崎米厚，鳩野洋子，島田美喜，編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.178-81.
岩佐嘉彦，北川幸子，工藤充子，小坂みち代，小林美智子，鈴木敦子，田村道子，津崎哲郎，徳永雅子，中塚恒子，中西真弓，長谷川喜久子，峯川章子，山田和子，山本裕美子，佐藤拓代，編著．子ども虐待予防のための地域保健活動マニュアル．東京：社会保険研究所；2002.
守田孝恵．セルフ・ヘルプ・グループ．尾崎米厚，鳩野洋子，島田美喜，編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.149-52.
守田孝恵．精神保健福祉業務の市町村移譲．尾崎米厚，鳩野洋子，島田美喜，編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.275-8.
鳩野洋子．プリシード・プロシードモデル．尾崎米厚，鳩野洋子，島田美喜，編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.118-21.
鳩野洋子．地域づくり型保健活動．尾崎米厚，鳩野洋子，島田美喜，編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.122-4.
鳩野洋子．閉じこもり．尾崎米厚，鳩野洋子，島田美喜，編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.188-90.
島田美喜．健康日本21．尾崎米厚，鳩野洋子，島田美喜，編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.64-6.
島田美喜．介護予防．尾崎米厚，鳩野洋子，島田美喜，編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.270-1.

抄録のある学会報告

金川克子，平山朝子，平野かよ子，山崎京子，潮見重毅，古谷章恵，池田信子，鈴木晃，安村誠司，多田羅浩三．保健師養成機関における公衆衛生看護教育の現状．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 236.
平野かよ子，曽根智史，鳩野洋子，島田美喜，三砂ちづる．21世紀に活躍する公衆衛生従事者の資質の向上方策に関する国際比較研究．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 469.
石井敏弘，大井田隆，石原明子，清水新二，平野かよ子，上畑鐵之丞．救急救命センターへ搬送された自殺未遂者の治療における精神科医療との連携．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 517.
和久野みゆき，佐藤聡子，川口和子，伊藤綾，岩田顕，山田和子．北海道における児童虐待予防への保健師の取り組み（第１報）－保健師の意識調査－．北海道公衆衛生学会；2002．北海道公衛誌 2002 ; 16(1).
伊藤綾，和久野みゆき，佐藤聡子，川口和子，岩田顕，山田和子．北海道における児童虐待予防への保健師の取り組み（第２報）－保健師の援助実態調査－．北海道公衆衛生学会；2002．北海道公衛誌 2002 ; 16(1).
和久野みゆき，山田和子．児童虐待事例と虐待疑い事例の保健師の援助実態－北海道における児童虐待予防に関する調査より－．第24回全国地域保健師学術研究会；2002. 11；大分．
上野昌江，山田和子，山本裕美子．児童虐待防止における保健所保健師の家庭訪問での支援内容の分析－母親への支援に焦点をあてて－．日本子どもの虐待防止研究会第８回学術集会；2002. 7；東京．
伊藤なおみ，山田和子．児童虐待の早期発見に関する保健師の確信．第49回日本小児保健学会；2002. 11；東京．
山田和子，平野かよ子，島田美喜，石井享子，鳩野洋子，飯島美世子，松田一美，須貝奈美．中小企業の労働者の自殺念慮に関する調査．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 914.
山田和子，平野かよ子，島田美喜，石井享子，鳩野洋子，松田一美，須貝奈美，飯島美世子．中高年男性労働者の自殺念慮に関する調査－事業所規模による比較－．第10回産業ストレス学会；2002. 10；東京．
稲岡由美子，守田孝恵．保健婦の基礎教育における「地区活動」の教育方法に関する研究．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 489.
平川恵，守田孝恵．市町村における精神保健福祉活動と保健所の役割．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 791.
越田美穂子，曽根史佳，稲岡由美子，平川恵，守田孝恵，竹原めぐみ．高齢者福祉施設における情報伝達の促進・阻害要因に関する研究．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 211.
中山貴美子，岡本玲子，塩見美抄，岩本里織，鳩野洋子．高齢者の健康生活支援のための介護予防アセスメントツールの開発．第５回日本地域看護学会学術集会；2002. 6；高知．
岡本玲子，鳩野洋子，中山貴美子．介護予防を要する高齢者の状態像と関連要因．第22回日本看護科学学会学術集

会；2002；東京．同講演集 2002 ; (22) : 153.

岡本玲子，鳩野洋子，島田美喜．介護保険と地域保健の連動を目指したアクションリサーチ．第7回老年看護学会；2002. 10.

岡山美穂，畑栄一，福島富士子．中高年の女性の更年期症状とその関連要因．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 676.

永井寄子，三砂ちづる，福島富士子．フォーカス・グループ・インタビューにおけるファシリテーターの質「女子高生の食に関する意識について」を事例として．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 386.

竹内正人，三砂ちづる，福島富士子．フィンランドにおける出産ケアサービス－Social Obstetricsという概念－．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 644.

福島富士子，尾島俊之，日隈桂子．地域における「健やか親子21」の推進に関する研究（第3報）－乳幼児健康診査における問診票の効果的活用に関する研究－．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 705.

糸数公，澁谷いづみ，福島富士子．地域における「健やか親子21」の推進に関する研究（第4報）－母子保健事業における評価指標についての情報収集の実態－．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 705.

犬塚君雄，岩室紳也，福島富士子．地域における「健やか親子21」の推進に関する研究（第5報）－市町村母子保健計画の見直しにおける都道府県型保健所の役割－．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 706.

藤内修二，福永一郎，福島富士子．地域における「健やか親子21」の推進に関する研究（第6報）－市町村の取り組みの実態－．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 706.

酒井美枝，島田美喜．行政における保健師の機能の考察．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 470.

松田宣子，岡本玲子，奥田博子，中山貴美子，関戸好子．保健所･市町村実習を通して学生が捉えた保健師の専門性の分析．第12回日本看護学教育学会学術集会；2002. 7；北海道．

松田宣子，奥田博子，川口優子．保健所保健師による地域精神障害者支援方法に関する研究．第22回日本看護科学学会学術集会；2002. 12；東京．

川口優子，松田宣子，奥田博子．在宅精神障害者への支援―訪問看護師の援助に関する研究―．第22回日本看護科学学会学術集会；2002. 12；東京．

その他学術報告（研究調査報告書含む）

平野かよ子，守田孝恵．厚生科学研究費補助金健康科学総合研究事業「これからの地域保健福祉対策に従事する保健婦の活動のあり方に関する研究」（主任研究者：北川定謙．）平成13年度報告書；2002. 1-49.

平野かよ子．21世紀に活躍する公衆衛生従事者の資質の向上方策に関する国際比較研究．第9回ファイザーヘルスリサーチフォーラム報告書；2002. p.8-15.

視聴覚資料やディジタル媒体

平野かよ子，他　監修．保健師のためのビデオシリーズ④地域での協働とネットワーク化．国民健康保険中央会：2002. ＜ビデオ＞

Proceedings with Abstracts

Hirano K, Yamada K. The skills of community development required to public health nurses in Japan. The 34th APACPH Kuala Lumpur Conference ; Jul 2002 ; Kuala Lumpur, Malaysia.

生涯保健部
Department of Health Promotion and Research

学術雑誌に発表した原著論文

田中哲郎，星埜京子．児童生徒の体のしくみや疾患の理解度について－小学生の体のしくみや疾患の理解度－．健教室 2002年4月 ; (614) : 28-33.

田中哲郎，西川路紀子．児童生徒の体のしくみや疾患の理解度について－中学生の体のしくみや疾患の理解度－．健教室 2002年4月 ; (615) : 64-70.

田中哲郎，市川光太郎．二次医療圏別にみたわが国の小児救急医療体制の現状．医事新報 2002年5月 ; (4071) : 59-62.

田中哲郎，広瀬菜々子．児童生徒の体のしくみや疾患の理解度について－高学生の体のしくみや疾患の理解度－．健教室 2002年5月 ; (772) : 64-9.

田中哲郎．保健知識の推移と今後の課題．健教室 2002年6月 ; (773) : 54-61.

田中哲郎，市川光太郎，山田至康．救急告示病院における小児救急医療の現状．日小児救急医会誌 2002 ; 1 (1) : 109-11.

市川光太郎，山田至康，田中哲郎．日本小児科学会認定医研修施設医長の小児救急医療研修・教育に関する意識調査．日小児救急医会誌 2002 ; 1 (1) : 113-6.

市川光太郎，山田至康，田中哲郎．日本小児科学会認定医研修施設における小児患者の季節変動調査(内科患者との比較)．日小児救急医会誌．2002 ; 1 (1) : 117-20.

市川光太郎，山田至康，田中哲郎．小児救急医療における遠隔医療システムの実験－双方向かつリアルタイムの動画像・音声伝送システムの応用－．小児臨 2002；55(6)：995-1001.

加藤則子，浅香昭雄．多胎児の妊娠期間別出生体重基準の試作．日公衛誌 2002 ; 49(4) : 361-9.

石川房子，吉橋和子，福田良子，伊藤憲美，伊藤順子，成清マサキ，西谷徳美，加藤則子．母乳栄養児のう触の実態についての考察．ペリネイタルケア 2002 ; 21(2) : 173-7.

学術誌に発表した総説

田中哲郎．わが国の小児救急医療体制の現状と今後の整備．周産期医 2002 ; 32(5) : 612-6.

田中哲郎．21世紀の小児救急医療．日小児会誌 2002；106(6) : 721-9.

石井博子，田中哲郎．赤ちゃんの事故予防対策．チャイルド ヘルス 2002；5 (6) : 649-53.

田中哲郎．小児救急医療におけるリスクマネジメント．日医師会誌 2002 ; 128(5) : 763-6.

加藤則子．2000年の乳幼児身体発育と幼児健康度調査．小児保健研 2002 ; 61(2) : 206-12.

加藤則子．新しい乳幼児身体発育調査結果と乳幼児栄養の現状．臨栄 2002 ; 100(6) : 712-5.

加藤則子．大学におけるヘルスプロモーション・コースの開発．海外情報ニュース 2002 ; (43) : 2-3.

加藤則子．遺伝と認識能力及び認識障害．海外情報ニュース 2002 ; (43) : 3.

加藤則子，犬飼和久，柴田隆．極低出生体重児における身体発育の15歳に至る追跡．小児科 2002；43(10)：1497-501.

加藤則子．新生児・乳児期の身体発育．周産期医 2002；32(増刊号) : 439-43.

加藤則子．10年ぶりに発表された「乳幼児身体発育調査」．母子保健情報 2002 ; 44 : 104-7.

小林正子，衞藤隆．思春期における身体の発育．周産期医 2002 ; 32(4) : 449-53.

著　書

田中哲郎．保育園における事故防止マニュアル．東京：日本小児医事出版社；2002. 7.

田中哲郎．二次医療圏別にみたわが国の小児救急医療体制の現状．東京：株式会社まほろば；2002. 9.

田中哲郎．教員に必要な子どもの健康知識．京都：東山書房；2002. 10.

加藤則子．ふたご・みつごは小さく生まれて大きく育つ．東京：ビネバル出版；2002.

加藤則子．身体発育の意義．日本小児科連絡協議会ワーキンググループ，編．心と体の健診ガイド　乳児編．東京：日本小児医事出版社；2002. p.89-91.

加藤忠明，加藤則子．保健・健康管理．森上史郎，柏女霊峰，編．保育用語辞典．京都：ミネルヴァ書房；2002. p.205-23.

加藤則子．子育てをとりまく環境．衞藤隆，他 編．新世紀の小児保健．東京：日本小児医事出版社；2002. p.112-3.

加藤則子．ライフステージ．尾崎米厚，鳩野洋子，島田美喜，編．いまを読み解く保健活動のキーワード．東京：医学書院；2002. p.173.

加藤則子．2000年乳幼児の身体発育調査からみた今後の動向．日本学校保健会，編．学校保健の動向　平成14年度版．東京：日本学校保健会；2002. p.78.

加藤則子．オーストラリアの学校健康診断．日本学校保健会，編．学校保健の動向　平成14年度版．東京：日本学校保健会；2002. p.235-7.

加藤則子．最近の小児の身体発育－乳幼児身体発育値を中心に－．川井尚，平山宗宏，編．新版・乳幼児保健指導－平成14年版母子健康手帳と平成12年度幼児健康度調査から－小児保健シリーズ　No. 55．東京：小児保健協会；2002. p.72-80.

加藤則子，奥野晃正，高石昌弘．乳幼児の身体発育値．加藤則子，高石昌弘，編．乳幼児身体発育値　－平成12年厚生省調査－．小児保健シリーズ　No. 56．東京：小児保健協会；2002. p.1-75.

佐藤加代子．学童期・思春期の栄養と食生活．高野陽，高橋種昭，大江秀夫，染谷理絵，水野清子，原田節子，佐藤加代子編．小児栄養：子どもの栄養と食生活（第3版改訂）．東京：医歯薬出版；2002. 137-49.

佐藤加代子．障害をもつ小児の食事と食生活．高野陽，高橋種昭，大江秀夫，染谷理絵，水野清子，原田節子，佐藤加代子編．小児栄養：子どもの栄養と食生活（第3版改訂）．東京：医歯薬出版；2002. 175-94.

抄録のある学会発表

田中哲郎．小児初期救急医療体制の再構築－地域における政策医療としての小児救急医療－．第105回日本小児科学会；2002. 4；名古屋．（ワークショップ）．

内山有子，田中哲郎，市川光太郎，山田至康，石井博子．二次医療圏別にみた小児救急医療体制．第16回日本小児救急医学会；2002. 6；神戸．

内山有子，田中哲郎，市川光太郎，山田至康，石井博子．救急告示病院における小児救急医療の現状．第16回日本小児救急医学会；2002. 6；神戸．

石井博子，田中哲郎．保護者の心肺蘇生法普及率．第16回日本小児救急医学会；2002. 6；神戸．

梶山瑞隆，市川光太郎，中川洋，久保実，谷口繁，山田至康，田中哲郎．保護者の小児救急に対する意識の検討－第一報－．第16回日本小児救急医学会；2002. 6；神戸．

梶山瑞隆，市川光太郎，中川洋，久保実，谷口繁，山田至康，田中哲郎．保護者の小児救急に対する意識の検討－第二報－．第16回日本小児救急医学会；2002. 6；神戸．

亀井美登里，兵藤智佳，野内英樹，小野崎郁史，田中哲郎．発展途上国におけるHIV／TB感染予防対策の試み．第17回日本国際保健医療学会；2002. 8；神戸．

逢坂文夫，池見好昭，田中哲郎，佐藤勉．理想と現実との同胞教における諸問題および対策方法について．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 679.

田中哲郎．二次医療圏別にみた小児救急医療体制の現状．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 517.

須藤紀子，石井博子，田中哲郎．年齢階級死亡率の国際比較．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 333.

石井博子，亀井美登里，田中哲郎．家庭における事故防止対策の現状に関する研究．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 646.

石井博子，亀井美登里，田中哲郎．家庭における事故防止対策の現状．第49回日本小児保健学会；2002. 10；神戸．

須藤紀子，石井博子，田中哲郎．小児期の主な疾患別死亡率の国際比較．第49回日本小児保健学会；2002. 10；神戸．同講演集 2002. p.618-9.

石井博子，亀井美登里，田中哲郎．家庭内事故防止点検プログラム（Home Safety 100）の実施結果と保護者の考え方．第49回日本小児保健学会；2002. 10；神戸．

広瀬菜々子，田中哲郎，星埜京子，西川路由紀子．高校生の健康に関する知識の定着素因について．第49回日本学校保健学会；2002. 10；札幌．

内山有子，田中哲郎，石井博子，星埜京子，西川路由紀子，広瀬菜々子，亀井美登里．小学生，中学生，高校生の保健知識の推移．第49回日本学校保健学会；2002. 10；札幌．

西川路由紀子，田中哲郎，星埜京子，広瀬菜々子．大学生の健康に関する知識の定着素因について．第49回日本学校保健学会；2002. 10；札幌．

星埜京子，田中哲郎，西川路由紀子，広瀬菜々子．小学生における保護者の保健学習内容に対する期待度についての研究．第49回日本学校保健学会；2002. 10；札幌．

加藤則子，望月友美子，大井田隆，北村邦夫．全国における思春期外来並びに思春期相談窓口の設置状況に関する調査結果，第61回日本思春期学会総会；2002. 8；金沢．同抄録集；2002. p.78.

加藤則子，望月友美子，大井田隆，北村邦夫．全国における思春期外来並びに思春期相談窓口の設置状況に関する調査結果，第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 204.

小林正子，加藤則子，小林秀資．思春期の≪キレる≫子どもの現状とその要因に関する一考察．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 662.

加藤則子，成清マサキ，伊藤憲美，吉橋和子，福田良子，石川房子，西谷徳美，伊藤順子．母乳栄養児の身体発育に関する検討（第2報－3歳までの追跡－．第49回日本小児保健学会；2002. 10；神戸．同抄録集；2002. p.538-9.

小林正子，向井田紀子，加藤則子．出生後の発育における身体リズムの形成に関する研究（1）－異性双生児の生後6か月余にわたる朝晩の体重計測値の時系列解析から－．第49回日本小児保健学会；2002. 10；神戸．同抄録集；2002. p.536-7.

小林正子，柴田元也，加藤則子．首都圏高校生の「キレる」についての意識調査と実態および生活環境に関する調査研究．第49回日本学校保健学会；2002. 9；札幌．同講演集；2002. p.338-9.

小林正子，向井田紀子．ヒトの発育リズムの成立過程に関する研究．第1回日本発育発達学会；2002. 12；東京．同講演集；2002. p.30.

大久保妙子，村上和恵，樋口京子，唐島美鶴，鈴木真美，岩瀬牧子，佐藤加代子．横浜市に於ける幼児の食事行動調からみた食育のあり方．第49回日本栄養改善学会学術総会；2002. 11；沖縄．栄養誌 2002 ; 60(5) : 270.

須藤紀子，関山牧子，大塚柳太郎．バングラデシュ農村部における半定量的食物摂取頻度調査票作成の試み．第49回日本栄養改善学会学術総会；2002. 11；沖縄．栄養誌 2002 ; 60(5) : 188.

その他学術報告（研究調査報告書含む）

加藤則子，大井田隆，北村邦夫，望月友美子．思春期保健の評価指標に関する研究．厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業「思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究」（主任研究者：望月友美子.）平成13年度報告書（第3/7）；2002. p.39-65.

加藤則子．医学的判断を必要とする事例について．文部科学省委嘱研究「『突発性攻撃的行動および衝動』を示す子どもの発達過程に関する研究」（研究代表者：富岡賢治.）平成12～13年度報告書；2002. p.96-100.

小林正子．発育発達の観点から，文部科学省委嘱研究「『突発性攻撃的行動および衝動』を示す子どもの発達過程に関する研究」（研究代表者：富岡賢治.）平成12～13年度報告書；2002. p.101-4.

小林正子，加藤則子．≪キレる≫に関する首都圏の中学・高校生の意識と実態および生活環境調査からの検討．厚生労働科学研究障害保健福祉総合研究事業「思春期における暴力行為の原因究明と対策に関する研究」（主任研究者：小林秀資.）平成13年度報告書；2002. p.19-150.

佐藤加代子，石川紀子，竹下生子，岡部司．育児不安軽減にむけた低出生体重児の栄養指導に関する研究．厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業「育児不安の軽減に向けた低出生体重児の栄養のあり方に関する研究」（主任研究者：板橋家頭夫.）平成13年度報告書；2002. p.325-9.

佐藤加代子，他．ワーキングママの健康づくりを目指して．厚木保健福祉事務所地域食生活対策推進協議会．ワーキングママの食生活を中心とした健康づくり支援対策事業平成11～13年度報告書；2002. p.1-43.

佐藤加代子，中田恵津子，秋山知子．「学んだことを即実行」を即実行．公衆衛生情報 2002 ; 32(4) : 36-9.

佐藤加代子，松村淳子，入江祐子．栄養士だからできる

住民主体の健康づくり．公衆衛生情報 2002 ; 32(5) : 32-7.

佐藤加代子，篠原芳恵．栄養士は健康づくりのコーディネーター役．公衆衛生情報 2002 ; 32(12) : 36-9.

Originals

Bae M, Watanabe C, Inaoka T, Sekiyama M, Sudo N, Bokul MH, Ohtsuka R. Arsenic in cooked rice in Bangladesh. Lancet 2002 ; 360(9348) : 1839-40.

Sudo N, Ohtsuka R. Fatigue complaints among female shift workers in a computer factory of Japan. J Hum Ergol 2002 ; 31 : 41-51.

Proceedings with abstracts

Uchiyama Y, Tanaka T, Mukaida N, Kobayashi M, Osaka F, Ikemi Y. Analysis of current school injury in Japan. 6th World Conference Injury Prevention and Control ; May 2002 ; Montreal.

Ishii H, Tanaka T, Uchiyama Y, Kobayashi I. Evaluating new pamphlets to childhood injury prevention by physical developmental stages. 6th World Conference Injury Prevention and Control ; May 2002 ; Montreal.

Tanaka T, Ishii H, Uchiyama Y, Kato T, Umeda M, Kamei M. Evaluating a new pamphlet with the injury prevention safety checklist during childhood health screenings. 6th World Conference Injury Prevention and Control ; May 2002 ; Montreal.

Tanaka T, Ishii H, Uchiyama Y, Umeda M, Kamei M. Unique features of childhood drowning in Japan. World Congress on Drowning 2002 ; Jun 2002 ; Amsterdam.

Ishii H, Tanaka T, Uchiyama Y, Ichikawa K, Yamada Y, Kobayashi I. The change in childhood downing rates from 1950 to 2000 in Japan. World Congress on Drowning 2002 ; Jun 2002 ; Amsterdam.

Uchiyama Y, Tanaka T, Ishii H, Ikemi Y, Osaka F. Drowning mortality and ratio of drowning to injury by age group in Japan. World Congress on Drowning 2002 ; Jun 2002 ; Amsterdam.

福祉サービス部
Department of Health and Social Services

学術雑誌に発表した原著論文

筒井孝子．急性期病棟の看護業務実態と患者の病態との関係（第 2 報）－高齢患者の特徴と臨床的看護必要度．病院管理 2002 ; 39(2) : 13-23.

筒井孝子．介護支援専門員による居宅サービス計画の「適切さ」の評価に関する主観的評価．日本の地域福祉 2002 ; 15 : 28-38,114,123-4.

岡田節子，筒井孝子，中嶋和夫．育児ストレス・コーピング尺度の因子不変性．静岡県立大学短期大学部研究紀要 2002 ; 15 : 171-8.

間三千夫，筒井孝子，中嶋和夫．母親の育児ストレス・コーピングと精神的健康の関係．信愛女子大学研究紀要 2002 ; 42 : 54-8.

筒井孝子，東野定律．自治体介護保険担当課における「地域福祉権利擁護事業」の連携に関する研究－全国市区町村「地域福祉権利擁護事業」実態調査を基に－．日本の地域福祉 2002 ; 16 : 3-13.

学術誌に発表した総説

増田雅暢．家族介護の評価と介護保険(1)．週刊社会保障 2002 ; (2198) : 54-7.

増田雅暢．家族介護の評価と介護保険(2)．週刊社会保障 2002 ; (2199) : 54-7.

増田雅暢．家族介護の評価と介護保険(3)．週刊社会保障 2002 ; (2200) : 24-7.

増田雅暢．家族介護の評価と介護保険(4)．週刊社会保障 2002 ; (2201) : 48-51.

増田雅暢．家族介護の評価と介護保険(5)．週刊社会保障 2002 ; (2202) : 54-7.

増田雅暢．配偶者特別控除廃止論に疑問．週刊社会保障 2002 ; (2208) : 54-7.

筒井孝子，東野定律．わが国における高齢者の「虐待」研究に関する文献的考察 わが国の高齢者虐待研究における「虐待」の定義と今後の課題．保健医療科学 2002 ; 51(3) : 168-73.

筒井孝子．介護保険制度下に求められる高齢者虐待研究の今後の方向．病院管理 2002 ; 39(4)：259-68.

筒井孝子．サービス計画の評価を進めサービス全般の質向上を．介護保険情報 2002. 12 : 34-7.

著　書

増田雅暢，鬼崎信好，伊奈川秀和，編著．世界の介護事情．東京：中央法規；2002年 9 月．

抄録のある学会発表

筒井孝子，東野定律．介護支援専門員による「介護サービス計画」の適切性に関する研究．日本地域福祉学会第16回大会；2002. 6. 14-16；西東京．同報告要旨集；2002. p.343-4.

東野定律，筒井孝子．市町村における地域福祉権利擁護事業との連携．日本地域福祉学会第16回大会；2002. 6. 14-16；西東京．同報告要旨集；2002. p.345-6.

筒井孝子，東野定律．一般急性期病棟への「看護必要度」導入に関する研究－第 2 報－．第40回日本病院管理学会学

術総会；2002. 11. 1-2；北九州．病院管理2002；39(Suppl)：95.

筒井孝子，東野定律．介護保険制度下の介護サービスの評価に関する研究 介護保険実施前後の痴呆症状を呈した高齢者に対する介護サービス提供の変化．日本社会福祉学会第50回全国大会；2002. 10. 26-27；東京．同研究報告概要集；2002. p.471.

東野定律，筒井孝子．全市町村における介護保険担当課の業務に関する調査研究－保健師の業務実態とその役割－．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002；49(10付)：546.

筒井孝子．「介護保険制度下の介護サービスの評価に関する研究」．平成14年度厚生科学研究長寿科学総合研究成果発表会 同研究報告抄録集；2002. p.1.

その他学術報告（研究調査報告書含む）

筒井孝子．財団法人日本興亜福祉財団研究助成 「介護保険制度下の介護サービスの評価に関する研究―介護保険実施前後の痴呆症状を呈した高齢者に対する介護サービス提供の変化―」報告書；2002. 10.

Proceedings with Abstracts

Tsutsui T, Higashino S. Elderly patients admitted to acute care hospitals in Japan, and characteristics of nursing care provided. 55th Annual Scientific Meeting of The Gerontological Society of America ; Nov 22-26 2002 ; Boston，America.

Higashino S, Tsutsui T. Elder abuse research methods in Japan. 55th Annual Scientific Meeting of The Gerontological Society of America ; Nov 22-26 2002 ; Boston，America.

口腔保健部
Department of Oral Health

学術雑誌に発表した原著論文

清田義和，葭原明弘，安藤雄一，宮崎秀夫．70歳高齢者の歯の喪失リスクに関する研究．口腔衛会誌 2002；52：663-71.

学術誌に発表した総説

安藤雄一，花田信弘．根拠に基づく健康政策（EBPH）への道のり．日歯評論 2002；62(8)：194-5.

青山旬，淺野牧茂．歯科医院における禁煙指導 データからみる禁煙支援の有効性．歯界展望．2002；100(3)：538-42.

著　書

青山旬．第3編歯科保健，第4編医療．瀬上清貴，橋本修二，ほか編．図説国民衛生の動向 2002．東京：厚生統計協会；2002．p.65, 78, 80-5.

安藤雄一．歯の喪失に関する疫学．福島一義，真鍋顕，豊島義博，編．新世紀のMI 臨床&接着修復．（デンタルダイヤモンド2002年秋季増刊号）．東京：デンタルダイヤモンド社；2002. p.168-75.

安藤雄一．フッ化物応用のエビデンス．花田信弘，編集代表．新しい時代のフッ化物応用－8020の達成をめざして－．東京：医歯薬出版；2002. p.10-9.

安藤雄一．水道水フッ化物添加の歴史．花田信弘，編集代表．新しい時代のフッ化物応用－8020の達成をめざして－．東京：医歯薬出版；2002. p.223-30.

安藤雄一．フッ化物洗口の普及．花田信弘，編集代表．新しい時代のフッ化物応用－8020の達成をめざして－．東京：医歯薬出版；2002. p.231-5.

安藤雄一．予防歯科におけるEBM．鴨井久一，吉田直人，花田信弘，編．EBMをめざした歯科医療　診断能力を向上させ，治療の確実性を高めるために．京都：永末書店；2002. p.33-40.

安藤雄一．受療行動．高江洲義矩，編．保健医療におけるコミュニケーション・行動科学．東京：医歯薬出版；2002. p.187-202.

安藤雄一．高齢者の健康調査　口の中の状態と健康の関係．8020推進財団，編．口腔と全身の健康との関係．東京：8020推進財団；2002. p.20-31.

花田信弘．う蝕予防のためのフッ化物の応用とは．花田信弘，編集代表．新しい時代のフッ化物応用－8020の達成をめざして－．東京：医歯薬出版；2002年11月．

武内博朗，川辺良一，戸田すま子，花田信弘．外科手術前に行うPOHC，プロフェッショナル・オーラル・ヘルス・ケア（多くの方へ口腔ケアを）．米山武義，植松宏，足立三枝子，編．東京：医歯薬出版；2002年6月．

花田信弘．誤嚥性肺炎と口腔常在細菌叢．道健一，黒澤崇四，監修．道脇幸博，ほか編．摂食機能療法マニュアル．東京：医歯薬出版；2002年10月．

日本口腔衛生学会（編集委員：雫石聡，宮崎秀夫，花田信弘，山内雅司，佐藤勉）編．2002年版歯科衛生の動向．東京：医歯薬出版；2002.

花田信弘．歯周病．臨床スポーツ医学 編集委員会，編．生活習慣病の予防と治療 運動・食事・薬物療法と効果的なコンビネーションの実際（臨床スポーツ医学　2002年臨時増刊号）．東京：文光堂；2002.

金子昇，野村義明，花田信弘．EBMからみたう蝕の感染症としてのとらえ方．鴨井久一，吉田直人，花田信弘編．EBMをめざした歯科医療　診断能力を向上させ，治療の確実性を高めるために．京都：永末書店；2002. p.93-102.

抄録のある学会発表

森屋一雄，諸石早苗，今井奨，花田信弘．う蝕細菌の保

護者幼児間垂直感染調査について．第75回日本細菌学会総会；2002. 4；横浜．

松本直子，Salam Nd Abdus，野村義明，花田信弘，泉福英信．唾液分泌低下マウスを用いた*Streptococcus mutans*による口腔感染モデル実験系の確立．第75回日本細菌学会総会；2002. 4；横浜．

西川原総生，野村義明，金子昇，泉福英信，花田信弘．簡易キットによるう蝕原性菌測定結果の対応．第75回日本細菌学会総会；2002. 4；横浜．

泉福英信，Salam Nd Abdus，野村義明，花田信弘．微小重力環境における*Streptococcus mutans*の口腔感染に関する研究．第75回日本細菌学会総会；2002. 4；横浜．

金子昇，泉福英信，宮崎秀夫，花田信弘．高齢者血漿における抗Pacペプチド（361-386）IgG抗体とう蝕経験との関連性．第75回日本細菌学会総会；2002. 4；横浜．

尾崎哲則，市川裕美子，寺嶋利子，青山旬，福田雅臣，梶純也．住民の歯科診療代に関する意識調査(1)　補綴物について．第43回日本歯科医療管理学会；2002. 7；福岡．

矢野明，竹腰正隆，前田史子．タバコ培養細胞を用いたヒト抗体産生．第20回日本植物細胞分子生物学会大会；2002. 7；奈良．

早川浩生，武内博朗，泉福英信，日高睦代，川辺良一，花田信弘．新しい3DSのためのドラッグ・リテーナーの簡便な作製法．第24回 歯科技工学会学術大会；2002. 8；さいたま．

安藤雄一，中村宗達．地域住民の歯科受療行動とその要因．第51回日本口腔衛生学会総会；2002. 9；大阪．口腔衛会誌 2002 ; 52(4) : 342-3.

野村義明，大久保満男，池主憲夫，坂井剛，張替信之，武者良憲，楠敏夫，安藤雄一，大内章嗣，米満正美，岡田眞人，石井拓男．住民参加型の歯科保健事業の実態基礎調査．第51回日本口腔衛生学会総会；2002. 9；大阪．口腔衛会誌 2002 ; 52(4) : 346-7.

青山旬，軽部裕代，福田雅臣，尾崎哲則，安井利一，宮武光吉．健康日本21・歯の健康の地方計画における目標及び評価指標について．第51回日本口腔衛生学会総会；2002. 9；大阪．口腔衛会誌 2002 ; 52(4) : 354-5.

渡邊英明，阿部智，金山晶，杉浦剛，品田佳世子，下山和弘，野村義明，安藤雄一，川口陽子．各国の歯科疾患実態調査による高齢者の歯科保健状況に関する国際比較．第51回日本口腔衛生学会総会；2002. 9；大阪．口腔衛会誌 2002 ; 52(4) : 434-5.

鴨田剛司，今井敏夫，佐藤勉，樋出守世，西沢俊樹，今井奨，花田信弘．人工口腔装置におけるスクロースのう蝕誘発性に及ぼす二糖類キシロシルフルクトシドの影響．第51回日本口腔衛生学会総会；2002. 9；大阪．口腔衛会誌 2002 ; 52(4) : 630-1.

稲葉大輔，南健太郎，釜阪寛，今井奨，米満正美．リン酸化オリゴ糖配合ガムの口腔内における再石灰化促進効果．第51回日本口腔衛生学会総会；2002. 9；大阪．口腔衛会誌 2002 ; 52(4) : 632-3.

後藤祥二，今井奨，西沢俊樹，花田信弘．人工口腔装置によるグルカン合成阻害剤のう蝕誘発阻害活性の基礎的検討．第51回日本口腔衛生学会総会；2002. 9；大阪．口腔衛会誌 2002 ; 52(4) : 566-7.

山中克之，佐藤拓也，吉居英一，花田信弘，泉福英信．微小重力環境における歯磨材を使用した口腔バイオフィルムの除去技術の開発 その１．第51回日本口腔衛生学会総会；2002. 9；大阪．口腔衛会誌 2002 ; 52(4) : 570-1.

泉福英信，山崎統資，山中克之，佐藤拓也，吉居英一，花田信弘．微小重力環境における歯磨材を使用した口腔バイオフィルムの除去技術の開発　その２．第51回日本口腔衛生学会総会；2002. 9；大阪．口腔衛会誌 2002 ; 52(4) : 572-3.

金子昇，泉福英信，花田信弘，宮崎秀夫．80歳高齢者における血漿中抗PAc（361-386）抗体価とDMFT との関連．第51回日本口腔衛生学会総会；2002. 9；大阪．口腔衛会誌 2002 ; 52(4) : 450-1.

安部井寿人，山口幸子，花田信弘，泉福英信．PMTC+3DS によるミュータンスレンサ球菌除菌の臨床研究．第51回日本口腔衛生学会総会；2002. 9；大阪．口腔衛会誌 2002 ; 52(4) : 514-5.

Matin K, Imai S, Takeuchi H, Uraguchi M, Hanada N. Behavior of *S. mutans* biofilm on implant materials formed in an artificial oral system. 第32回日本口腔インプラント学会；2002. 9；広島．

鈴木馨，中野年継，矢野明，進士秀明．Subtractive hybridization法及びcDNAマクロアレイによるタバコエリシター応答性遺伝子群の解析．日本植物学会第66回大会；2002. 9；京都．

安藤雄一，長田斉．都道府県における歯科疾患・歯科保健に関する実態調査の実施状況．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 822.

青山旬，尾崎哲則，軽部裕代，福田雅臣，安井利一，宮武光吉．歯科疾患実態調査，保健福祉動向調査（歯科保健）および地域の歯科診療所患者調査による20歯以上保有率の比較．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 201.

安井利一，青山旬，軽部裕代，福田雅臣，尾崎哲則，宮武光吉．健康日本21・歯の健康の地方計画における成人・老人歯科保健項目及び内容の分析．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 278.

多田章夫，花田信弘，丹沢秀樹．寝たきり高齢者の口腔細菌叢について．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 825.

中尾龍馬，天笠光雄，浅野敏彦，花田信弘，本田三男，泉福英信．hu-PBLを移植したマウスのHIV-1口腔感染に対する抵抗性．第16回日本エイズ学会学術集会・総会；2002. 11；名古屋．

兼清優，濱武牧子，矢野明，村上利夫，前田敏広，江田

康幸，本多三男．Sequential Immunizationを応用したHIV-1 Env C4-V3ペプチドによる交差反応性V3結合抗体の誘導．第32回日本免疫学会・学術集会；2002. 12；東京．

その他学術報告（研究調査報告書含む）

青山旬．歯の喪失防止．8020推進財団委託　8020資料集作成報告書（研究代表者：末高武彦.）；2002. p.13-20.

江藤亜紀子．創薬等ヒューマンサイエンス総合研究事業「口腔感染症への臨床応用を目的とした抗菌ペプチドの定量系の確立」平成13年度若手研究者奨励研究報告書；2002. p.98-100.

矢野明．創薬等ヒューマンサイエンス総合研究事業「植物による医療用タンパク質生産系開発に関する研究」平成13年度若手研究者奨励研究報告書；2002. p.1-4.

安藤雄一，ほか．都道府県における歯科保健水準把握の実態に関する調査．厚生科学研究補助金「歯科保健水準を系統的に評価するためのシステム構築に関する研究」（主任研究者：安藤雄一.）平成13年度総括・分担報告書；2002. p.5-29.

安藤雄一，ほか．フッ化物洗口による歯科医療費の軽減効果－新潟県のデータを用いた分析－．厚生科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「歯科疾患の予防技術・治療評価に関するフッ化物応用の総合的研究」（主任研究者：高江洲義矩.）平成13年度研究報告書；2002. p.317-23.

安藤雄一，ほか．70歳高齢者の歯の喪失リスクに関する研究．厚生科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「口腔保健と全身的な健康状態との関係について」（主任研究者：小林修平.）平成13年度報告書；2002. p.88-102.

石井拓男，安藤雄一，青山旬，ほか．歯周疾患の経済的評価に関する研究 市町村における老人保健事業の実施状況と歯科医療費データの関連．厚生科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「歯周疾患の予防，治療技術の評価に関する研究」（主任研究者：鴨井久一.）平成13年度報告書；2002. p.44-9.

飯嶋理，柳川忠廣，中村宗達，安藤雄一．8020に向けて．8020公募研究事業「歯科診療所における歯周病予防管理の促進に関する受療行動調査」平成13年度研究報告書；2002. p.54-92.

花田信弘．口腔保健と全身的な健康状態との関係について．厚生科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「高齢者の嚥下性肺炎・術後合併症の予防に関する研究」（主任研究者：小林修平．<H13-医療-001>）平成13年度分担研究報告書；2002. p.119-54.

花田信弘，主任研究者．厚生科学研究費補助金生活安全総合研究事業「特定保健用食材の安全性および有用性に関する研究」<H13-生活-038> 平成13年度総括研究報告書；2002. p.3-10.

今井奨．人工口腔装置を用いた食品の機能評価技術の確立．厚生科学研究費補助金生活安全総合研究事業「特定保健用食材の安全性および有用性に関する研究」（主任研究者：花田信弘．<H13-生活-038>）平成13年度総括研究報告書；2002. p.11-5.

今井奨．In vitroにおける食品のう蝕原性評価技術の確立．厚生科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「低・非・抗う蝕性食品の検定評価法の確立とその応用・普及に関する研究」（主任研究者：星野悦郎．<H12-医療-005>）平成13年度総括研究報告書；2002.

視聴覚資料やディジタル媒体

青山旬．図説国民衛生の動向2002　CD-ROM版．東京：厚生統計協会；2002. <CD-ROM>

Originals

Qiu D, Tanihata T, Aoyama H, Fujita T, Inaba Y, Minowa M. Relationship between a high mortality rate and extreme heat during the summer of 1999 in Hokkaido Prefecture, Japan. J Epidemiol 2002 ; 12(3) : 254-7.

Ogawa H, Yoshihara A, Hirotomi T, Ando Y, Miyazaki H. Risk factors for periodontal disease progression among elderly people. J Clin Periodontol 2002 ; 29 : 592-7.

Hirotomi T, Yoshihara A, Yano M, Ando Y, Miyazaki H. Longitudinal study on periodontal conditions in healthy elderly people in Japan. Community Dent Oral Epidemiol 2002 ; 30 : 409-17.

Yamaga T, Yoshihara A, Ando Y, Yoshitake Y, Kimura Y, Shimada M, Nishimuta M, Miyazaki H. Relationship between dental occlusion and physical fitness in an elderly population. J Gerontol A Biol Sci Med Sci 2002 ; 57 : M616-20.

Kamasaka H, Inaba D, Minami K, Nishimura T, Kuriki T, Imai S, Yonemitsu M. Remineralization of enamel by phosphoryl-oligosaccharides (Pos) supplied by chewing gum ; Part I. Salivary assessment in vitro. J Dent Health 2002 ; 52 : 105-11.

Inaba D, Kamasaka H, Minami K, Nishimura T, Kuriki T, Imai S, Yonemitsu M. Remineralization of enamel by phosphoryl-oligosaccharides (Pos) supplied by chewing gum ; Part II. Inraoral evaluation. J Dent Health 2002 ; 52 : 112-8.

Yano A, Kaneko N, Ida H, Yamaguchi T, Hanada N. Real-time PCR for quantification of Streptococcus mutans. FEMS Microbiol Lett 2002 ; 217 : 23-30.

Tada A, Hanada N. Sexual differences in smoking behaviour and dental caries experience in young adults. Public Health 2002 ; 116 : 341-6.

Senpuku H, Asano T, Matin K, Salam MA, Tsuha Y, Horibata S, Shimazu Y, Soeno Y, Aoba T, Sata T, Hanada N, Honda M. Effects of human interleukin-18 and interleukin-12 treatment on human lymphocyte

engraftment in NOD-scid mouse. Immunology 2002 ; 107 : 232-42.

Matin K, Salam MA, Akhter J, Hanada N, Senpuku H. Role of stromal-cell derived factor-1 in the development of autoimmune diseases in non-obese diabetic mice. Immunology 2002 ; 107 : 222-32.

Tada A, Watanabe T, Yokoe H, Hanada N, Tanzawa H. Oral bacteria influenced by the functional status of the elderly people and the type and quality of facilities for the bedridden. J Appl Microbiol 2002 ; 93 : 487-91.

Sato Y, Senpuku H, Okamoto K, Hanada N, Kizaki H. *Streptococcus mutans* binding to solid phase dextran mediated by the glucan-binding protein C. Oral Microbiol Immunol 2002 ; 17 : 252-6.

Nomura Y, Eto A, Hanada N, Senpuku H. Identification of the peptide motifs that interact with HLA-DR8 (DRB1*0802) in *Streptococcus mutans* proteins. Oral Microbiol Immunol 2002 ; 17 : 209-14.

Nomura Y, Takeuchi H, Senpuku H, Ida H, Yoshikawa E, Koyama K, Kanazawa N, Hanada N. Survey of dental hygienists and healthcare workers for microorganisms in the oral cavity. J Infect Chemother 2002 ; 8 : 163-7.

Senpuku H, Tada A, Takada M, Sato T, Hanada N. Reproducibility of oral bacterial isolation in the elderly. Jpn J Infect Dis 2002 ; 55 : 61-2.

Hanada N, Fukushima K, Nomura Y, Senpuku H, Hayakawa M, Mukasa H, Shiroza T, Abiko Y. Cloning and nucleotide sequence analysis of the *Streptococcus sobrinus gtfU* gene that produces a highly branched water-soluble glucan. Biochim Biophys Acta 2002 ; (1570) : 75-9.

Tada A, Hanada N, Tanzawa H. The relation between tube feeding and *Pseudomonas aeruginosa* detection in the oral cavity. J Gerontol A Biol Sci Med Sci 2002 ; 57 : M71-7.

Proceedings with abstracts

Kamasaka H, Inaba D, Minami K, Imai S, Yonemitsu M. Increased remineralization pf enamel by saliva stimulated with a sugar-free gum containing phosphoryl-oligosaccharides calcium (Pos-Ca). 50th Annual meeting of Japanese Association for Dental Research ; Nov 2002 ; Sendai.

Inaba D, Minami K, Kamasaka H, Imai S, Yonemitsu M. Intraoral effects of phosphoryl-oligosaccharides calcium (Pos-Ca) on remineralization in enamel and dentin lesions. 50th Annual meeting of Japanese Association for Dental Research ; Nov 2002 ; Sendai.

Nomura Y, Nishikawara F, Kageyama M, Turumoto A, Hanada N, Kumagai T. The control Study of removing mutans streptococci from oral cavity, Europian Festival of Oral Science ; Sep 2002 ; Cardiff, Wales, UK.

Nishikawara F, Nomura Y, Senda A, Hanada N. Quantitative estimation of oral bacteria for precise caries risk evaluation, Europian Festival of Oral Science ; Sep 2002 ; Cardiff, Wales, UK.

Hanada N. Dental Plaque Reconsideration: Colony Formation and Biofilm Development. Japanese Association for Dental Research ; Nov 2002 ; Sendai.

生活環境部
Department of Environmental Health

学術雑誌に発表した原著論文

山口一郎，富樫厚彦．血管外に漏れた^{201}Tlによる患者被ばくの簡易推定法．保健物理 2002 ; 37(1) : 50-5.

渡辺征夫，工藤雅子，山崎一彦，寺島千晶，後藤純雄，池口孝．都市ごみ焼却炉排ガス中のクロロフェノール類の全自動分析装置の開発とその応用．環境システム計測制御学会誌 2002 ; 7 (2) : 281-4.

福崎紀夫，Khodzher TV，原宏．酸性雨モニタリングにおける分析精度管理―炭酸水素イオン分析によるイオンバランスの向上―．大気環境学会誌 2002 ; 37 : 393-401.

学術誌に発表した総説

山口一郎．X線診断装置等使用施設における放射線事前安全評価の課題とその解決方法の提案．医療放射線防護NEWSLETTER 2002 ; 34 : 74-5.

山口一郎，戸田均．無線スイッチによる診療用X線装置の操作について．医療放射線防護NEWSLETTER 2002 ; 34 : 90-2.

原宏．酸性雨とフィールドサイエンス(I)．湿性沈着の現状と科学としての発展．フィールドサイエンス 2002 ; 1 (1)1-13.

原宏．酸性雨とフィールドサイエンス(II)．湿性沈着の現状と科学としての発展．フィールドサイエンス．2002 ; 1 (2)1-12.

原宏．酸性雨研究の歴史(1)．R. A. Smithの仕事．化学史研究 2002 ; 29 : 140.

著　書

大久保千代次．電磁界．高野健人，他7名編．社会医学事典．東京：浅倉書店；2002. p.252-3.

山口一郎．医療放射線管理の実践マニュアル．社団法人日本アイソトープ協会医療放射線安全管理研究会，編．東京：丸善；2002.

山口一郎．医療被ばくガイドライン．社団法人日本放射

線技師会医療被ばくガイドライン委員会，編．東京：医療科学社；2002.

渡辺征夫．開発途上国の大気汚染．不破敬一郎，森田昌敏，編．地球環境ハンドブック第２版．東京：朝倉書店；2002. p.820-4.

渡辺征夫．GEMS/Air（AMIS）．不破敬一郎，森田昌敏，編．地球環境ハンドブック第２版．東京：朝倉書店；2002. p.1028-33.

原宏．液相でのOHラジカルの生成と反応．日本化学会酸性雨問題研究会，編．続 身近な地球環境問題―酸性雨を考える．東京：コロナ社；2002. p.235-44.

原宏．酸性雨と対流圏オゾン．石谷久，編集代表．環境ハンドブック．東京：産業環境管理協会；2002. p.455-9.

原宏．酸性雨の研究の歴史．不破敬一郎，編．地球環境ハンドブック第２版．東京：朝倉書店；2002. p.324-31.

原宏．精度保証/精度管理の考え方．不破敬一郎，編．地球環境ハンドブック第２版．東京：朝倉書店；2002. p.410-6.

抄録のある学会発表

岡野英幸，大久保千代次．遺伝的高血圧ラットに及ぼす静磁場の影響．第17回日本生体磁気学会；2002. 5；静岡．日本生体磁気学会誌　2002；15（特別号，大会論文集）：91-2.

樋口恵，浅野牧茂，大久保千代次．ウサギのシガレット主流煙吸入による末梢循環血白血球粘着能変化に及ぼすビタミンCおよびEの効果．第25回日本バイオレオロジー学会年会；2002. 6；松本．同抄録集；2002. p.61.

桑原千雅子，鶴見玲子，福本敦，柴田尚，杉山英男，加藤文男．キノコ生息基質より分離された微生物のセシウム取込．日本薬学会第122年会；2002. 3；千葉．同要旨集 3；2002. p.188.

米谷民雄，佐藤兼章，磯村公郎，渡辺均，手島玲子，杉山英男，池渕秀治，佐藤英郎．放射性物質試験法 ICP/質量分析法によるウランの定量土壌．日本薬学会第122年会；2002. 3；千葉．同要旨集 3；2002. p.199.

小林淳，木津良一，杉山英男，河原栄．ヒト由来の培養細胞を用いた生体組織への金属の影響．フォーラム 2002：衛生薬学・環境トキシコロジー；2002. 10. 同抄録集；2002. p.85.

桑原千雅子，鶴見玲子，福本敦，柴田尚，杉山英男，加藤文男．キノコ生息環境におけるセシウムの挙動 －土壌微生物のセシウム取り込み－．第39回全国衛生化学技術協議会年会；2002. 10；山形．同講演集；2002. p.132-3.

諸澄邦彦，山口一郎．IVR（interventional radiology）における従事者被ばく線量の測定．第１回日本放射線安全管理学会；2002. 12；大阪．

バティニ　マドシリ，渡辺征夫．家庭用コンロから排出されるガス状汚染物の計測システムの改善とその利用事例．第43回大気環境学会年会；2002. 9；府中．同講演要旨集；2002. 9. p.331.

渡辺征夫，工藤雅子，山崎一彦，倉田泰人，唐牛聖文，前田恒昭，後藤純雄，池口孝．都市ごみ焼却炉から排出されるクロロフェノール類とダイオキシン類などとの関連．第43回大気環境学会年会；2002. 9；府中．同講演要旨集；2002. 9. p.332.

渡辺征夫，工藤雅子，倉田泰人，山崎一彦．焼却炉排ガス中のクロロフェノール類のLC/ECD，LC/MS，GC/MSによる分析．第43回大気環境学会年会；2002. 9；府中．同講演要旨集；2002. 9. p.333.

山神真紀子，大場和生，大野隆史，北瀬勝，酒井哲男，渡辺征夫．大気中SO2濃度と排出量による空間希釈容量の推定．第43回大気環境学会年会；2002. 9；府中．同講演要旨集；2002. 9. p.480.

渡辺征夫，内山真由美，内山巌雄，泉克幸．都市大気中の広範囲VOCの分析手法とその連続測定．第43回大気環境学会年会；2002. 9；府中．同講演要旨集；2002. 9. p.566.

村山留美子，山口貴史，山内恒幸，後藤純雄，渡辺征夫，内山巌雄．個人曝露評価のためのダイナミックヘッドスペース法による尿中のベンゼン等の測定．第43回大気環境学会年会；2002. 9；府中．同講演要旨集；2002. 9. p.578.

山田正人，大迫政浩，渡辺征夫，齊藤聡，藤井崇．秋田県エコタウン事業の構造分析．第13回廃棄物学会研究発表会；2002. 11；京都．同論文集；2002. p.200-1.

渡辺征夫，後藤純雄，小野寺祐夫，泉克幸，倉田泰人，池口孝．廃棄物焼却炉の排ガス中のダイオキシン類制御のためのクロロフェノール類およびガス状総有機ハロゲン化合物の連続監視手法および排出抑制システムの開発．第２回廃棄物処理科学研究発表会；2002. 12；東京．同論文集；2002. p.124-9.

松村徹，後藤純雄，佐才秀平，杜本博司，大久保豊，伊藤安紀，遠藤治，渡辺征夫，田辺潔，松下秀鶴．大気浮遊粉じん中ダイオキシン類濃度の経年変化について（その２）．第11回環境化学討論会；2002. 6；箱根．

原宏，瀬戸信也，中村晃，野口泉，大泉毅．イオンバランスの許容範囲の設定に関する理論的考察．第43回大気環境学会年会；2002. 9；府中．同講演要旨集；2002. 9. p.305.

西田陽介，原宏，林和彦，秋元肇．流跡線解析と総観気象場の考察による輪島における降水化学．第43回大気環境学会年会；2002. 9；府中．同講演要旨集；2002. 9. p.298.

野口泉，原宏．重炭酸のイオンバランスに対する影響（２）．第43回大気環境学会年会；2002. 9；府中．同講演要旨集；2002. 9. p.378.

芹澤啓，中村晃，原宏，瀬戸信也，野口泉，大泉毅．湿性沈着モニタリング網評価の試みその７アメダスデータを用いた酸性雨局降水量の評価．第43回大気環境学会年会；2002. 9；府中．同講演要旨集；2002. 9. p.1.

鈴木晴子，張京花，原宏，青木正敏，堀江勝年，張尚勲，泉克彦，福山力，内山政弘，畠山史郎．アカマツ林における硫酸エアロゾル濃度の高度分布とフラックス．第43回大気環境学会年会；2002. 9；府中．同講演要旨集；2002. 9. p.1.

張尚勲，高野賢一，鈴木晴子，堀江勝年，青木正敏，泉克彦，原宏，福山力，内山政弘，畠山史郎，松田和秀．アカマツ林におけるO3，SO2，NO2濃度と沈着速度の経時変化および気象要因との関係．第43回大気環境学会年会；2002. 9；府中．同講演要旨集 ; 2002. 9. p.531.

泉克彦，内山政弘，福山力，高見昭憲，畠山史郎，青木正敏，原宏．奥日光におけるエアロゾル中の水溶性イオン成分の粒径分布測定．第43回大気環境学会年会；2002. 9；府中．同講演要旨集 ; 2002. 9. p.536.

原宏．空気と環境．第43回大気環境学会年会；2002. 9；府中．学会と市民がつくる環境シンポジウム講演旨集；2002. 9； p.1-5.

原宏．酸性雨の原因となる微粒子．市民講座：生活の中の微粒子―健康や環境に及ぼす影響― 講座テキスト．日本エアロゾル学会；2002. 8. p.15-20.

中島大介，江副優香，後藤純雄，遠藤治，新井洋平，矢島博文，小野寺祐夫，石井忠浩．発光細菌を用いる変異原性試験法の高感度化における留意点．第11回環境化学討論会；2002. 6；箱根．

後藤純雄，中島大介，江副優香，前田恒昭，遠藤治，渡辺征夫，吉澤秀二．高分子材料中のモノマー類の簡易測定法の検討．第11回環境化学討論会；2002. 6；箱根．

清水啓右，酒井康行，遠藤治，後藤純雄，迫田章義．SPMの新規バイオアッセイ手法の開発－肺胞上皮の気液界面培養を用いた評価－．第8回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会；2002. 9.

遠藤治，高橋芳一，大久保忠利，渡辺征夫，吉澤秀二，後藤純雄，田辺潔，松下秀鶴．東京都心部における大気浮遊粉じんの変異原活性の長期変動．第31回日本環境変異原学会；2002. 11；東京．

影山志保，中島大介，山本貴士，江副優香，小野寺祐夫，遠藤治，大久保忠利，安原昭夫，後藤純雄．塩素処理ベンゾフェノン系化合物の変異原性．第31回日本環境変異原学会；2002. 11；東京．

後藤純雄，中島大介，影山志保，江副優香，遠藤治，高木敬彦，諸岡信久，峯木茂，小野寺祐夫．公園の土壌の変異原性について．第31回日本環境変異原学会；2002. 11；東京．

高木秀尚，小谷野道子，遠藤治，渡辺征夫，後藤純雄，吉澤秀二，松下秀鶴．室内及び屋外空気中浮遊粒子の多環芳香族炭化水素の測定－捕集器設置場所の影響－．平成14年度室内環境学会総会；2002. 12；東京．

その他学術報告（研究調査報告書含む）

大久保千代次，牛山明，増田宏．生体内脳微小循環動態観察システムを用いた商用周波数帯電磁界の全身暴露影響評価に関する研究．（研究代表者：大久保千代次．）平成13年度環境保全研究成果集；2002. p.10-1 － 10-18.

大久保千代次，主任研究者．厚生科学研究費補助金生活安全総合研究事業「電磁界の白血球及び免疫系機能に及ぼす影響に関する研究」平成13年度総括報告書；2002. p.1-48.

大久保千代次，牛山明，増田宏．厚生科学研究費補助金生活安全総合研究事業「商用周波電磁界の白血球動態への影響に関する研究」（研究代表者：大久保千代次．）平成13年度分担研究報告書；2002. p.8-15.

杉山英男，寺田宙．輸入食品の放射能調査研究．文部科学省第43回環境放射能調査研究（主任研究者：杉山英男．）成果論文抄録集；2002. p.118-9.

杉山英男，寺田宙．輸入食品の放射能調査研究．文部科学省第44回環境放射能調査研究（主任研究者：杉山英男．）成果論文抄録集；2002. p.122-3.

杉山英男．食品試料の放射能水準調査．(財)日本分析センター平成13年度環境放射能水準調査結果報告書；2002.

杉山英男．放射性物質試験法．日本薬学会第122年会 公衆衛生協議会資料；2002. p.18-9.

杉山英男，寺田宙．文部科学省科学研究費補助金「土壌細菌から始まる食物連鎖によるキノコへのセシウム蓄積に関する研究」（研究代表者：加藤文男．）平成12年度-13年度報告書；2002. p.1-51.

渡辺征夫，池口孝，後藤純雄，小野寺佑夫，泉克幸，倉田泰人．環境省廃棄物処理等科学研究費補助金「廃棄物焼却炉の排ガス中のダイオキシン類制御のためのクロロフェノール類およびガス状総有機ハロゲン化合物の連続監視手法および排出抑制システムの開発」（研究代表者：渡辺征夫．）平成13年度研究報告書；2002.

内山巌雄，村山留美子，渡辺征夫，後藤純雄，他．環境省総合研究「生体試料測定による地域住民の有害大気汚染物質暴露アセスメントに関する研究」（研究代表者：内山巌雄．）平成13年度プロジェクト別環境保全研究成果集，環境省発行；2002. p.7-1～7-45.

後藤純雄，中島大介，江副優香，田辺潔，渡辺征夫，遠藤治，他．環境省総合研究「生物評価試験による浮遊粒子状物質の長期曝露モニタリングに関する研究」（研究代表者：後藤純雄．）平成13年度プロジェクト別環境保全研究成果集，環境省発行；2002. p.77-1～77-14.

原宏，久松由東，中村晃，野口泉，大泉毅，瀬戸信也，福崎紀夫．環境省地球環境研究総合推進費「東アジア酸性雨モニタリングネットワークの測定および評価・解析手法の高度化に関する研究」 終了研究報告書；2002. p.24-41.

雨谷敬史，遠藤治，小谷野道子，杉田和俊，後藤純雄，松下秀鶴．ロープレッシャーインパクターを用いた東京都大気中の浮遊粒子及び粒子状多環芳香族炭化水素の粒径分布．公害健康被害補償予防協会委託「生活環境中の粒子状物質等による個人暴露測定手法の開発に関する研究」業務報告書，財団法人日本環境衛生センター．2002；37-128.

遠藤治，小谷野道子，後藤純雄，杉田和俊．室内及び室外の粒径別採取空気浮遊粒子の変異原性．生活環境中の粒子状物質等による個人暴露測定手法の開発に関する研究報告書，公害健康被害補償予防協会委託業務報告書，財団法人日本環境衛生センター，2002. p.193-205.

麻野間正晴，遠藤治，若林敬二，他15名．環境省委託業務「環境中の変異原性物質に関する調査研究」平成13年度

結果報告書，財団法人日本公衆衛生協会，2002.

Originals

Gmitrov J, Ohkubo C, Okano H. Effect of 0.25 T static magnetic field on micr ocirculation in rabbits. Bioelectromagnetics 2002 ; 23 : 224-9.

Gmitrov J, Ohkubo C. Verapamil protective effect on natural and artificial magnetic field cardiovascular impact. Bioelectromagnetics 2002 ; 23 : 531-41.

Gmitrov J, Ohkubo C. Artificial static and geomagnetic field interrelated impact on cardiovascular regulation. Bioelectromagnetics 2002 ; 23 : 329-38.

Kuwahara C, Sugiyama H, Kato F. Cesium uptake by edible mushrooms and microorganisms isolated from mushroom substrata. Radioprotection 2002 ; 37(C1) : 347-52.

Matsumura T, Goto S, Sasai S, Shamoto H, Endo O, Watnabe I, Tanabe K, Matsushita H. Concentration of dioxins in ambient air over the past 20 years. Organohalogen Compounds 2002 ; 57 : 45-8.

Watanabe I, Kudo M, Kurata Y, Yamasaki K, Terashima C, Ikeguchi T. Analysis of chlorophenols in flue gas of waste incineratprs by HPLC/ECD installed in sequential automated monitoring instrument as well as by HPLC/MS and GC/MS. Organohalogen Compounds 2002 ; 59 : 89-92.

Madhusree B, Goto S, Ohkubo T, Tian H, Ando F, Fukuhara M, Tohkin M, Watnabe I. Mutagenicity testing of 1,3-butadiene, 1,4-pentadiene-3-ol, isoprene, 2,4-hexadiene, cis- and trans- piperlylene. J Health Sci 2002 ; 48(1) : 73-8.

Seto S, Nakamura A, Noguchi I, Ohizumi T, Fukuzaki N, Toyama S, Maeda M, Hayashi K, Hara H. Trends and seasonal variations in precipitation chemistry in Japan. Atmos Environ 2002 ; 36 : 3505-17.

Koyano M, Endo O, Katoh M, Valdivia R, Marileo MI, Morita K, Goto S, Matsushita H. Polynuclear aromatic hydrocarbon concentration and mutagenicity of airborne particles in urban air: comparison of Tokyo area and Santiago. J Health Sci 2002 ; 48 : 256-62.

Takagi Y, Goto S, Nakajima D, Endo O, Koyano M, Kohzaki K, Matsushita H. Mutagenicity of suspended particulate matter divided in three sizes indoors. J Health Sci 2002 ; 48 : 480-4.

Yamamoto N, Fujii M, Endo O, Kumagai K, Yanagisawa Y. Broad range observation of particle deposition on greased and non-greased impaction surfaces using a line-sensing optical microscope. J Aerosol Sci 2002 ; 33 : 1667-79.

Books

Ushiyama A, Masuda H, Ohkubo C. Subchronic effects of whole body exposure to 50 Hz electoromagnetic fields on leukocyte-endothelium interaction in the microcirculation in mice. In: Asano M, Ohkubo C, editors. Microcirculation annual 2002 ; 18". Tokyo: Nihon-Igakukan ; 2002. p.111-2.

Higuchi M, Asano M, Ohkubo C. Effect of vitamins C and E on microcirculatory leukocyte/endothelium interaction induced by cigarette smoke inhalaion: Intravital-microscopic observation using a rabbit ear chamber technique. In: Asano M, Ohkubo C, editors. Microcirculation annual 2002 ; 18". Tokyo: Nihon-Igakukan ; 2002. p.51-2.

Proceedings with abstracts

Okano H, Ohkubo C. Modulating effects of static magnetic fields on blood pressure in conscious rabbits. 7th World Congress for Microcirculation ; 2002 ; Bologna. In: Bologna: Modduzzi Editore S.p.A. ; 2002. p.159-63.

Ohkubo C, Okano H, Xu S, Gmitrov J. Modulator effects of static magnetic field exposure on microcirculation and systemic circulation in animals. 24th Annual Meeting of Bioelectromagnetic Society ; Jun 2002 ; Quebec City, Canada. In: BEMS Abstract Book of the 24th Annual Meeting ; 2002. p.72-3.

Ushiyama A, Ohkubo C. Effects of whole body exposure to threshold levels of 50Hz electromagnetic fields on the intramicrovascular leukocyte adhesion in conscious mice. The 1st Asian and Cceanic Congress for Radiation Protection ; 2002 ; Seoul, Korea. In: Abstracts of Symposium, 3 pages, CD-ROM.

Ohkubo C. Health effects from exposure to power frequency magnetic fileds. The 1st Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection ; 2002 ; Seoul, Korea. In: Abstracts of Symposium, B-2, 5 pages, CD-ROM.

Ohkubo C. Intravital-microscopic evaluation of exposure effects to radio-frequency electromagnetic fields on the cerebral circulation in rats, special regard to blood-brain barrier function. Korea EMF Workshop of KEES ; 2002 ; Seoul, Korea. In: Abstracts ; 2002. p.163-4. (Plenary Lecture).

Ohkubo C, Masuda H, Ushiyama A, Wake K, Watanabe S, Taki M. Intravital-microscopic evaluation of local exposure effects to radio-frequency electromagnetic fields on the cerebral circulation in rats, special regard to blood-brain barrier function. International Symposium on Bioelectromagnetics ; 2002 ; Kyoto, Japan. In: Proceedings ; 2002. p.44-6.

Ushiyama A, Ohkubo C. Effects of whole body exposure to 50 Hz electromagnetic fields on the leukocyte adhesion to the endothelial walls in mice. 24th Annual Meeting of Bioelectromagnetic Society ; Jun 2002 ; Quebec City, Canada. In: BEMS Abstract Book of the 24th Annual Meeting ; 2002. p.232-3.

Masuda H, Ushiyama A, Wake K, Watanabe S, Taki M and Ohkubo C. Acute effects of local exposure to radio-frequency electromagnetic fields with a loop antenna on the cerebral microcirculation in rats. 26th General Assembly of the International Union of Radio Science ; Aug 2002 ; Maastricht. CD-ROM.

Masuda H, Ushiyama A, Wake K, Watanabe S, Taki M, Ohkubo C. Sub-chronic effects of local exposure to radio-frequency electromagnetic fields on the cerebral microcirculation in rats. 24th Annual Meeting of Bioelectromagnetic Society ; Jun 2002 ; Quebec City, Canada. In: BEMS Abstract Book of the 24th Annual Meeting ; 2002. p.29-30.

Okano H, Ohkubo C. Effects of static magnetic fields on sponataneous hypertensive rats. The 2nd international workshop on biological effects of electro magnetic fields; Oct 2002 ; Greece. In: Proceedings of the 2nd International Workshop on Biological Effects of Electromagnetic Fields ; 2002. p.869-74.

Okano H, Ohkubo C. Anti-pressor effects of static magnetic fields in genetically hypertensive rats. 24th Annual Meeting of Bioelectromagnetic Society ; Jun 2002 ; Quebec City, Canada. In: BEMS Abstract Book of the 24th Annual Meeting ; 2002. p.26-27.

Fukuda A, Kitabayashi K, Iwadate Y, Yamaguchi I. Exposure doses to interventional cardiologists during intracoronary radiotherapy with phosphorus-32. The First Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection ; Oct. 2002 ; Seoul.

Yamaguchi I. Current status of training for medical radiation inspector in NIPH. The First Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection ; Oct. 2002 ; Seoul.

Yoshizawa S, Ezoe Y, Goto S, Maeda T, Endo O, Watanabe I. A simple method to determine the sources of VOCs in indoor air. Indoor Air 2002 ; Jun 2002 ; Monterey, U.S.A. In: Levin H, editors. Proceedings ; 2002. Vol.2. p.938-43.

Watanabe I, Kudo M, Ikeguchi T, Goto S, Kurata Y, Terashima C, Yamasaki K. Improved Sequential Automated-Analytical System (HPLC/ECD) for clorophenols in flue gas from waste incinerators. In: A Global Technical Conference & Exposition ; Mar 2002 ; New Orleans. Book of 2002 Pittsburgh Conference ; 2002. p.662-3.

Watanabe I. History of air contaminants analysis in Japan. China-Japan Symposium on Environmental Analysis ; Oct. 2002. In: Proceedings ; 2002. p.35-41.

Hara H. A Snap-shot of EANET measurements in 1999. IGBP-IGAC Composition of Asian Deposition (CAD) Workshop ; Nov 2002 ; Malaysia. In: Abstracts ; 2002. p.1.

Noguchi I, Hara H. Precipitation bicarbonate and its significance in East Asia. IGBP-IGAC Composition of Asian Deposition (CAD) Workshop ; Nov 2002 ; Malaysia. In: Abstracts ; 2002. p.1.

Hayashi K, Hara H, Okazaki M. A critical-load approach to evaluation of potentially vulnarable forested areas in soil acidification- a case study in Japan. IGBP-IGAC Composition of Asian Deposition (CAD) Workshop ; Nov 2002 ; Malaysia. In: Abstracts ; 2002. p.8.

Yoshizawa S, Ezoe Y, Goto S, Maeda T, Endo O, Watanabe I. A simple method to determine the sources of VOCs in indoor air. Indoor Air 2002 ; Jun 2002 ; Monterey, U.S.A.

Nakajima D, Ezoe Y, Goto S, Sugita K, Endo O, Mineki S, Ishii T. Modification of umu test using bioluminascent bacteria and application to suspended particulate matter. Proceeding of International Workshop on Environmental Problems in East Asia ; Aug 2002 ; Kyoto.

建築衛生部
Department of Architectual Hygiene and Housing

学術雑誌に発表した原著論文

朴俊錫，池田耕一．居住空間における真菌由来揮発性有機化合物による室内空気汚染に関する研究，付着材料別における真菌からのMVOCs放散特性．日本建築学会計画系論文集 2002 ; (561) : 61-6.

柳宇，三浦邦夫，入江建久，池田耕一．空調用ダクト内付着粒子状物質の挙動と制御に関する研究．空気調和・衛生工学会論文集 2002 ; (86) : 97-105.

柳宇．Bake-outによるVOCs汚染の低減とその効果の評価．室内環境学会誌 2002 ; 5 (1) : 1-6.

学術誌に発表した総説

鈴木晃．住宅改善支援の二つの技術と地域における保健師の役割．地域保健 2002 ; 33(4) : 68-75.

鈴木晃．在宅ケアの日常的継続的支援者による住環境整備の支援．訪問看と介護 2002 ; 7 (7) : 524-9.

尾形由起子，野中多恵子，山口のり子，鈴木晃．住宅改善支援の地域ネットワークづくり．地域保健 2002 ; 33(6) :

54-63.

鈴木晃．住まいと健康―住文化の地方性を視野に入れて．公衆衛生 2002 ; 66(10) : 725-9.

鈴木晃．在宅高齢者の居住環境整備における保健師の役割―自立支援の目標達成に向けて．生活教育 2002 ; 46(12) : 7-14.

三浦邦夫，柳宇．空調設備における抗菌性能の試験方法と評価指標の提案．建築設備士 2002 ; 34(12) : 47-50.

柳宇，三浦邦夫．ダクト内汚染を簡易に測定・評価できる「デジタル画像法」とその実証試験．建築設備と配管工事 2003 ; 41(2) : 44-8.

吉田拓正．望ましい室内音環境．室内環境学会誌 2002 ; 5 (2) : 38-42.

朴俊錫．微生物由来化学物質による室内空気汚染．空気清浄 2002 ; 39(6) : 40-3.

池田耕一．室内空気汚染物質のガイドライン．建築雑誌 2002 ; 117(1491) : 30-1.

池田耕一．特集シックハウス．特集にあたって．空気清浄 2002 ; 39(6) : 1.

池田耕一．シックハウスとは何か，シックハウスはなぜ起こったか．空気清浄 39(6) ; 2002 : 4-14.

池田耕一．室内化学物質濃度の濃度厚生機構．濃度測定及び室内濃度の実態．空気清浄 2002 ; 39(6) : 25-32.

著　書

鈴木晃．序論．日本住宅会議，編．マンション居住―住宅白書 2002-2003．東京：ドメス出版；2002. p.1-5.

鈴木晃．地域福祉，住宅政策による居住保障の枠組み．唐鎌直義，編．国民生活と社会福祉政策．京都：かもがわ出版；2002. p.285-301.

阪東美智子．ホームレスにみる家族の分解と再編．広原盛明，岩崎信彦，高田光雄，編著．少子高齢時代の都市住宅学―家族と住まいの新しい関係―．京都：ミネルヴァ書房；2002. p.83-98.

池田耕一．185．シックハウス症候群．社会医学事典．東京：朝倉書店；2002. p.370-1.

吉田拓正．騒音の健康影響．茅陽一，監修．環境ハンドブック．東京：産業環境管理協会；2002. p.305-7.

抄録のある学会発表

中島明子，阪東美智子，大崎元，義平真心．寄せ場型地域における地域再生とホームレスの人々への居住支援の可能性―その１　研究の枠組みと人的地域資源―．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集F-1；2002. p.929-30.

大崎元，中島明子，阪東美智子，義平真心．寄せ場型地域における地域再生とホームレスの人々への居住支援の可能性―その２　山谷・釜ヶ崎の地域比較―．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集F-1；2002. p.1137-8.

阪東美智子，中島明子，大崎元，義平真心．寄せ場型地域における地域再生とホームレスの人々への居住支援の可能性―その３　釜ヶ崎における簡易宿泊所の経営動向―．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集F-1；2002. p.1139-40.

糟谷佐紀，米田郁夫，阪東美智子，金井謙介，浅和貴，多淵敏樹．段差形状が車いすの操作に及ぼす影響―計測用車いすによる定量的評価―．日本福祉のまちづくり学会第５回全国大会；2002. 8；熊本．同梗概集；2002. p.121-4.

金井謙介，糟谷佐紀，阪東美智子，米田郁夫，多淵敏樹．兵庫県における住宅改造助成事業の現状と課題―障害者・高齢者の動作能力に対応した住宅空間設計に関する基礎的研究―．日本福祉のまちづくり学会第５回全国大会；2002. 8；熊本．同梗概集；2002. p.169-72.

米田郁夫，糟谷佐紀，多淵敏樹，阪東美智子，西岡基夫，奥英久，末田統．路面環境と車輪アライメントが車いす操作に及ぼす影響．第17回リハ工学カンファレンス；2002. 8；横浜．同講演論文集；2002. 8. p.477-80.

糟谷佐紀，米田郁夫，金井謙介，浅和貴，多淵敏樹，阪東美智子．段差形状が車いすの操作に及ぼす影響．第17回リハ工学カンファレンス；2002. 8；横浜．同講演論文集；2002. 8. p.481-4.

阪東美智子，糟谷佐紀，米田郁夫，多淵敏樹，西岡基夫．床材の違いによる車いすの走行負荷の定量的評価．第17回リハ工学カンファレンス；2002. 8；横浜．同講演論文集；2002. 8. p.493-6.

米田郁夫，糟谷佐紀，阪東美智子，末田統，奥英久．駆動輪アライメントが手動車いす操作負担に及ぼす影響．第２回福祉工学シンポジウム；2002. 11；名古屋．同講演論文集；2002. 11. p.197-200.

糟谷佐紀，米田郁夫，阪東美智子，末田統，奥英久．段差が車いす操作負担に及ぼす影響．第２回福祉工学シンポジウム；2002. 11；名古屋．同講演論文集；2002. 11. p.201-4.

金川克子，平野かよ子，鈴木晃．保健師養成機関における公衆衛生看護教育の現状．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 236.

林恭一，鈴木晃．診療所のバリアフリー化の試み（第２報）．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 578.

野中多恵子，鈴木晃．地域での住宅改善支援の取り組み（その１）－地域での社会資源と連携体制の課題．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 579.

山口のり子，鈴木晃．地域での住宅改善支援の取り組み（その２）－個別支援の技術と地域システムへのフィードバック．第61回日本公衆衛生学会総会，さいたま．2002. 10；579.

濱砂祥子，鈴木晃，石井享子，小林正子，入江建久．介護保険制度による住宅改修の実態調査―新潟県大和町の高齢者の住まいに関する検討・その１．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付)

: 580.

岩野恵子，鈴木晃，石井享子，小林正子，入江建久．在宅サービス利用高齢者が居住する新築住宅の実態調査―新潟県大和町の高齢者の住まいに関する検討・その２．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 580.

鈴木晃．ケーススタディを通した住宅改善支援の技術移転．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 581.

荒木美津子，鈴木晃，畑栄一．斜面地域における在宅介護高齢者の外出実態とその要因．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 761.

鈴木晃．二世帯住宅の都市住宅問題的背景．第44回日本土地法学会大会；2002. 10；東京．

塩津弥佳，池田耕一，吉澤晋．ホルムアルデヒド対策を行った単身者用マンションにおけるカビの発生実態について．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集D-2 ; 2002. p.895-6.

阿部香菜子，塩津弥佳，池田耕一，早川真．いわゆるシックハウス対策を行った集合住宅におけるホルムアルデヒド濃度と浮遊真菌濃度の実態調査．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集D-2 ; 2002. p.903-4.

朴俊錫，池田耕一．住宅における化学物質汚染に関する実態調査，その４住空間内における化学物質空気汚染の実態調査．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集D-2 ; 2002. p.913-4.

松本麻里，吉野博，池田耕一，野崎淳夫，天野健太郎，飯田望，鈴木憲高，角田和彦，北條祥子，石川哲．シックハウスにおける室内空気質と居住者の健康状況に関する調査研究，その３，第２次調査の概要と室内化学物質濃度の測定結果．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集D-2 ; 2002. p.929-30.

鈴木憲高，吉野博，池田耕一，野崎淳夫，天野健太郎，和田淳，飯田望，松本麻里．シックハウスにおける室内空気質と居住者の健康状況に関する調査研究，その4. 換気性状と化学物質濃度の関係についての調査．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集D-2 ; 2002. p.931-2.

飯田望，吉野博，池田耕一，野崎淳夫，天野健太郎，松本麻里，北條祥子，武田篤，石川哲．シックハウスにおける室内空気質と居住者の健康状況に関する調査研究，その5. 問診票による化学物質過敏症診断の結果．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集D-2 ; 2002. p.933-4.

天野健太郎，吉野博，池田耕一，野崎淳夫，飯田望，松本麻里，北條祥子，石川哲．シックハウスにおける室内空気質と居住者の健康状況に関する調査研究，その6. シックハウスの事例検証．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集D-2 ; 2002. p.935-6.

平井真貴，光田恵，吉野博，池田耕一．高齢者施設における低濃度臭気測定法に関する研究，第１報．臭気評価法による問題点の抽出．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集D-2 ; 2002. p.949-50.

阿部有希子，近藤靖史，池田耕一，朴俊錫，長澤康弘．室内スケートリンク内空気質の測定及びCDF解析．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集D-2 ; 2002. p.961-2.

池田耕一，塩津弥佳．蛍光灯安定器からのPCB漏洩事故による室内濃度推定法に関する考察．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集D-2 ; 2002. p.985-6.

平井真貴，光田恵，吉野博，池田耕一．高齢者施設における臭気測定法に関する研究，第１報．低濃度臭気評価法による臭気感覚評価の検討．第15回におい環境学会；2002. 同講演要旨集；2002. p.46-9.

山崎省二，池田耕一，朴俊錫，高鳥浩介，狩野文雄，田中誠，柳宇，竹内黎明，大廻和彦，八太豊，三上壯介，杉山順一，高柳保．空調用ダクト内微生物汚染と室内微生物汚染の関連（その２）．第20回空気性状とコンタミネーションコントロール研究大会；2002. 同予稿集；2002. p.93-5.

朴俊錫，池田耕一，市原信和，新納啓順，高鳥浩介．微生物由来の揮発性有機化合物（MVOC）による室内空気汚染に関する研究，その3. 生殖場所によるによる微生物汚染のMVOC特性について．第20回空気性状とコンタミネーションコントロール研究大会；2002. 同予稿集；2002. p.106-8.

池田耕一，塩津弥佳，佐藤重幸．竣工直後の集合住宅におけるパッシブサンプラーを用いた室内空気室全戸調査．平成14年度空気調和・衛生工学会学術講演会；2002；福岡．同講演論文集；2002. p.129-32.

吉野博，大澤元毅，池田耕一，渡邊俊行，尾崎明仁，三田村輝章．シックハウスに関連した室内空気質と換気量の調査研究，その1. 調査概要戸宮城県内の住宅12軒における換気量測定結果．平成14年度空気調和・衛生工学会学術講演会；2002；福岡．同講演論文集；2002. p.133-6.

朴俊錫，池田耕一，塩津弥佳．病院施設における質内空気環境実態調査．平成14年度空気調和・衛生工学会学術講演会；2002；福岡．同講演論文集；2002. p.149-52.

長谷川あゆみ，竹田菊男，大橋一俊，大川典子，田中祐子，池田耕一，塩津弥佳，松村年朗，中澤裕之，瀬戸博，柳澤幸雄．室内空気中のフタル酸エステル類の調査．平成14年度室内環境学会総会；2002. 同論文集；2002. p.124-7.

野崎淳夫，飯倉一雄，池田耕一，吉澤晋．PIDモニタにおける室内VOC濃度測定性に関する研究．平成14年度室内環境学会総会；2002. 同論文集；2002. p.174-5.

黒田健一，光田恵，青山祐也，吉野博，池田耕一．高齢者施設の居室におけるゼオライトパネルの脱臭効果に関する研究．第26回人間－熱環境系会議シンポジウム；2002. 同報告集；2002. p.9-12.

池田耕一，塩津弥佳，堀雅宏，和久井健洋，松原啓介．シックハウス患者住宅における化学物質濃度の測定．第26回人間－熱環境系会議シンポジウム；2002. 同報告集；

2002. p. 57-60.

吉野博，天野健太郎，飯田望，松本麻里，池田耕一，野崎淳夫，角田和彦，北條祥子，石川哲．シックハウスの室内空気質と居住者の健康状況に関する調査，その2. 第26回人間－熱環境系会議シンポジウム；2002. 同報告集；2002. p. 61-4.

青山祐也，光田恵，黒田健一，吉野博，池田耕一．高齢者施設の居室における臭気測定方法と実測例．第26回人間－熱環境系会議シンポジウム；2002. 同報告集；2002. p. 157-60.

加納匡経，光田恵，吉野博，池田耕一．高齢者居室における臭気対策について，その1. ゼオライトパネルによる消気対策．におい研究湖陵研究論文集；2002. p.52-61.

柳宇，三浦邦夫，山崎省二．空調設備における抗菌性能の試験と評価方法の提案．第20回空気清浄とコンタミネーション研究大会；2002；東京．同予稿集；2002. p.253-6.

柳宇，坂本数彦，三浦邦夫．空調用ダクト内付着粒子の簡易測定・評価方法の提案．平成14年度空気調和・衛生工学会学術講演会；2002；福岡．同講演論文集；2002. p.1405-8.

吉田拓正，長田泰公，川口毅，星山佳治．道路騒音のアノイアンス反応曲線について．日本騒音制御学会研究発表会；2002. 同講演論文集；2002. p.85-9.

吉田拓正，長田泰公，川口毅，星山佳治．幹線道路騒音と住民反応･健康影響．日本音響会秋季研究発表会；2002. 同講演論文集；2002. p.687-8.

吉田拓正．市街地の道路境界における騒音レベルと交通量に関する検討．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集；2002. p.105-6.

吉田拓正．静けさ･騒音･遮音．第31回日本医療福祉設備学会；2002；東京．同講演集；2002. p.12.（特別講演）.

その他学術報告（研究調査報告書含む）

鈴木晃．高齢者と住まい．福祉のひろば2002 ; 392 : 46-9.

池田耕一．シックハウス症候群，その実態と対策．Aromatopia 2002 ; 11(1) : 18-26.

池田耕一．保育所の子供たち，シックハウス症候群の症状が．ちいさいおおきい・つよいよわい 2002 ; (34) : 89-91.

池田耕一．病院の環境についての問題点 病院特集巻頭言．建築設備士 2002 ; 34 : 1-2.

池田耕一．今後のビル管理における諸問題－空気調和の管理について．ビルと環境 2002 ; (96) : 34-8.

池田耕一．５分で完璧マスター！性能キーワード．空気環境．建築知識 2002 ; (4) : 223.

小林秀資，小林正子，加藤則子，池田耕一，佐々木昭彦，佐藤加代子，梶本雅俊．思春期の暴力行為に関する事例収集のための調査用紙作成．厚生科学研究費補助金厚生科学特別研究事業「思春期の暴力行為の原因究明と対策に関する研究」平成12年度研究報告書；2001. p.197-202.

池田耕一．居住環境の都市化にともなう母子の心身変化…今後へ向けての対策と提言．厚生科学研究費補助金厚生科学特別研究事業「思春期の暴力行為の原因究明と対策に関する研究」平成12年度研究報告書；2001. p.205-11.

池田耕一，小川博，小竿真一郎，高鳥浩介，田中誠，細渕和成，朴俊錫，明星敏彦，山崎省二．室内空気中及びダクト内の微生物汚染に関する実態調査．厚生科学研究費補助金生活安全総合研究事業「室内空気中の微生物汚染に関する調査研究」平成12年度報告書；2002. p.5-78.

池田耕一．対象とする化学物質の健康影響．厚生科学研究費補助金生活安全総合研究事業平成13年度研究成果報告書；2002. 第１章，第１節 p.1.

池田耕一．化学物質のガイドラインの現状．厚生科学研究費補助金生活安全総合研究事業平成13年度研究成果報告書；2002. 第１章，第１節 p.1-5.

内山巌雄，細見正明，池田耕一，岩崎好陽，遠山千春．PCB暴露による健康対策等専門家会議報告書，八王子市教育委員会；2002.

池田耕一，加藤真介，佐々木和美，高橋裕一，山口一，守屋好文，乙黒利和．ホルムアルデヒド関係のJIS案．経済産業省委託「ホルムアルデヒド等VOCの試験法に関する標準化調査」平成13年度研究成果報告書；2002. 第３章，第３節，第１項 p.37-97.

小林信行，池田耕一，他．換気性能評価小委員会平成13年度活動報告書，社団法人空気調和衛生工学会，換気性能評価小委員会；2002.

池田耕一．室内空気環境測定による効果，分煙効果判定基準検討会報告書；2002. 第２章，第３節 p.9-16.

吉野博，天野健太郎，池田耕一，野崎淳夫，飯田望，角田和彦，北條祥子，石川哲．シックハウスにおける科学物質による室内空気汚染と居住者の健康状況に関する実態調査．日本建築学会技術報告集 2002 ; (15) : 161-4.

池田耕一．健康影響とガイドライン．第３回室内空気室計測シンポジウム；2002. p.1-14.

村上周三，田辺新一，加藤信介，池田耕一，他．建築材料等のVOC（総揮発性有機化合物）放散量測定量の標準化．補正予算基盤創成研究開発事業，新エネルギー・産業技術総合開発機構委託業務平成12年度成果報告書；2002.

Originals

Park JS, Ikeda K. Database system, AFODAS/AVODAS, on indoor air organic compounds in Japan. Indoor Air 2003 ; 13 (Suppl. 6) : 35-41.

Proceedings with Abstracts

Ikeda K, Shiotsu M, Sato S. On the formaldehyde and VOCs concentration difference among house in apartment house just after the construction. Indoor Air 2002. Proceedings Vol. 1 ; 2002. p.249-54.

Yoshino H, Amano K, Ikeda K, Nozaki A, Iida N,

Kakuta K, Hojo S, Ishikawa S. Field survey on indoor air quality and occupants' health conditions in sick houses. Indoor Air 2002. Proceedings Vol. 4 ; 2002. p.119-24.

Park JS, Ikeda K. MVOC emissions from fungi in HVAC system. Indoor Air 2002. Proceedings Vol. 4 ; 2002. p.335-40.

Shiotsu M, Ikeda K, Yasunaga H, Abe K, Yoshizawa S. Consideration on the fungi growth in the Japanese apartment houses for single persons in relation to their living activities. Indoor Air 2002. Proceedings Vol. 4 ; 2002. p.746-51.

Bando M, Osaki H, Yoshihira M. Supportive housing for homeless people in Japan: progressive approaches by community-based organizations. ENHR 2002 Conference ; Jul 2002 ; Vienna. (CD-ROM).

水道工学部
Department of Water Supply Engineering

学術雑誌に発表した原著論文

秋葉道宏，金漢承，国包章一，北澤弘美．浄水処理過程におけるクリプトスポリジウム除去指標の検討．用水と廃水 2002 ; 44 : 313-7.

菅原繁，国包章一，眞柄泰基．*Microcystis aeruginosa*の凝集－フロキュレーション，沈澱プロセスに関する基礎的研究―凝集センサー及び流動電流測定装置による解析―．水道協会雑誌 2002 ; 71(7) : 15-25.

学術雑誌に発表した総説

国包章一．湖沼・貯水池系原水を対象とした高効率浄水技術の開発・研究．水道公論 2002 ; 38(8) : 40-3.

抄録のある学会報告

国包章一．硝酸・亜硝酸性窒素による水道水源汚染と健康影響．第44回日本水環境学会セミナー「硝酸・亜硝酸性窒素汚染対策に向けた新たな展開」；2002；東京．同講演資料集．p.12-7.

秋葉道宏，金漢承，国包章一．浄水処理過程におけるクリプトスポリジウムオーシスト代替指標としての藻類の検討．第11回日韓水環境シンポジウム；2002. 同講演論文集．p.25-31.

赤井寿充，森一晃，国包章一．給水装置の構造及び材質等に関わる今後の課題．第53回全国水道研究発表会；2002. 同講演集．p.498-9.

金漢承，秋葉道宏，国包章一．クリプトスポリジウムオーシストのろ過による除去に及ぼす原水濁度の影響．第53回全国水道研究発表会；2002. 同講演集．p.174-5.

川合正恭，秋葉道宏，国包章一．湖沼・貯水池におけるかび臭発生と水質因子との関係．第53回全国水道研究発表会；2002. 同講演集．p.86-7.

大城貴，伊藤雅喜，国包章一．LC-ICP/MSを用いた環境水中のアンチモンの形態別分析法―共存物質が形態別分析に及ぼす影響―．第53回全国水道研究発表会；2002. 同講演集．p. 546-7.

小田リサ，岡野誠志，菊池伸江，浅見真理，相澤貴子．メチル・ターシャリー-ブチル・エーテル（MTBE）のオゾンによる処理性の検討．第53回全国水道研究発表会；2002. 同講演集．p.272-3.

大久保慎二，相澤貴子，国包章一．ビスフェノールＡ塩素処理副生成物のエストロゲンレセプター結合活性及び浄水処理性．第53回全国水道研究発表会；2002. 同講演集．p.568-9.

丸山章代，相澤貴子，他．利根川水系における非イオン界面活性剤（AE，APE）の動態．第５回日本水環境学会シンポジウム；2002. 同講演集．p.23.

許春蓮，千葉信男，西村修，秋葉道宏，西村哲治，安藤正典．釜房ダム湖流域におけるAOCの測定．日本水処理生物学会；2002. 日本水処理生物学会誌 2002 ; 別巻 : 24.

その他学術報告（研究調査報告書含む）

国包章一，主任研究者．相澤貴子，他．厚生科学研究費補助金生活安全総合研究事業「内分泌かく乱化学物質の水道水中の挙動と対策に関する研究」平成13年度報告書；2002. 3.

秋葉道宏，他．クリプトスポリジウム及びジアルジアの診断，治療及び疫学に関する研究．厚生科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「水道水のクリプトスポリジウム等による汚染に係る健康リスク評価及び管理に関する研究」（主任研究者：国包章一.）平成13年度報告書；2002. 3.

眞柄泰基，国包章一，相澤貴子，伊藤雅喜，秋葉道宏，浅見真理，他．厚生科学研究費補助金生活安全総合研究事業「WHO飲料水水質ガイドライン改訂等に対応する水道における化学物質に関する研究」（主任研究者：眞柄泰基.）平成13年度報告書；2002. 3.

眞柄泰基，国包章一，相澤貴子，他．厚生科学研究費補助金生活安全総合研究事業「水道におけるダイオキシン類の実態調査の解明に関する研究」（主任研究者：眞柄泰基.）平成13年度報告書；2002. 3.

国包章一，伊藤雅喜，他．有害元素等規制項目による地下水高濃度汚染実態解明と修復技術に関する研究．環境省平成13年度環境保全成果集；2002. 3.

国包章一，伊藤雅喜，秋葉道宏，他．湖沼・貯水池におけるかび臭の発生予測と制御に関する研究．環境省平成13年度環境保全成果集；2002. 3.

相澤貴子，浅見真理，他．水道水源水域等における親水性かつ難分解性有害化学物質の動態と水道におけるリスク評価ならびに制御に関する研究．環境省平成13年度環境保全

成果集；2002. 3.

相澤貴子，浅見真理．酸化消毒剤注入量の低減化に関する研究報告書．日本水道協会；2002. 3.

Originals

Akiba M, Kunikane S, Kim HS, Kitazawa H. Algae as surrogate indices for the removal of *Cryptosporidium* oocysts by direct filtration. Water Science & Technology: Water Supply 2002 ; 2 (3) : 73-80.

Kim HS, Kobayashi Y, Akiba M, Kunikane S. Evaluation of *Scenedesmus quadricauda* as a surrogate of *Cryptosporidium* oocysts removal in direct filtration. Water Science &Technology: Water Supply 2002 ; 2 (5-6) : 395-402.

Hashimoto A, Kunikane S, Hirata T. Prevalence of *Cryptosporidium* oocysts and *Giardia* cysts in the drinking water supply in Japan. Water Research 2002 ; 36 : 519-26.

Proceedings with Abstracts

Kunikane S. Japanese research agenda in drinking water control. In: Proceedings of the 6th Japan-US Conference on Drinking Water Quality Management ; Oct 2002 ; Tokyo, Japan.

Kunikane S. Endocrine disrupting chemicals. In: Proceedings of the 6th Japan-US Conference on Drinking Water Quality Management ; Oct 2002 ; Tokyo, Japan.

施設科学部
Department of Facility Sciences

学術雑誌に発表した原著論文

井上由起子，小滝一正，大原一興．在宅サービスを活用する高齢者のすまいに関する考察．日本建築学会計画系論文集 2002. 6 ; (556) : 137-43.

学術雑誌に発表した総説

筧淳夫．施設環境評価チェックリストについて．公共建築 2002 ; 44(173) : 23-8.

筧淳夫．病棟からはじめる手術部位感染の防止，手術部位感染防止の具体策，SSI防止のための環境整備 換気．エキスパートナース 2002 ; 18(9) : 47-9.

筧淳夫．病院栄養部門に必要な災害対策，施設設備面を中心に．臨栄 2002 ; 101(2) : 150-3.

筧淳夫．医療福祉用語の基礎知識．病院建築 2002 ; (137) : 36.

井上由起子．居住環境単位小規模化の試みを訪ねて―地域とつながる高齢者居住―．病院建築 2002. 4 ; (135) : 2-6.

井上由起子．リハビリテーションの原点 からだと環境シリーズ・環境編．REHA-TECH 2002 ; 2 : 6-8.

小林健一．医療福祉建築フォーラム2002報告．病院建築 2002. 10 ; (137) : 34.

著　書

筧淳夫，小林健一．21世紀の急性期病院の外来設計,米国の通院治療施設および外来手術施設を中心として．医療マネジメント学会，監修，医療連携セミナー企画委員会，編．急性期病院のあり方と外来分離．東京：株式会社じほう；2002．p.223-32.

筧淳夫，他．医療の変革に伴う施設環境の変革．社団法人精神科病院協会，吉富薬品株式会社．精神科病院建築図譜集．東京：有限会社NOVA出版；2002. p.142-51.

山下哲郎，筧淳夫，竹宮健司，小林健一，他．日本医療福祉建築協会，編．医療・福祉用語の基礎知識．東京：中和印刷株式会社出版部；2002年8月.

抄録のある学会報告

筧淳夫．子どもが主体性を発揮できるための支援，病院建築家の立場から．日本小児看護学会第12回学術集会；2002. 7；横浜．同講演集；2002. p.32.（シンポジウム）.

筧淳夫，井上由起子．回復期リハビリテーション病棟の現状と課題，病棟の建築計画に関する研究．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集E-1；2002. p.949-50.

朱庸善，長澤泰，筧淳夫．精神科入院患者の属性と行動からみたパーソナルスペースに関する研究．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集E-1；2002. p.211-2.

井上由起子，大原一興，小滝一正．まちづくり活動への参加と高齢期の地域生活に関する考察　その２．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集E-2；2002. p.275-6.

小林健一，小菅瑠香．外来点滴センターの運営概要と物的環境－通院治療部門の建築計画に関する研究（その１）－．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集D-2 ; 2002. p.241-2.

小菅瑠香，小林健一．外来点滴センターにおける患者属性と患者心理－通院治療部門の建築計画に関する研究（その２）－．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集D-2 ; 2002. p.243-4.

大竹さつき，山崎貴代，中山茂樹，筧淳夫，小林健一．運営からみる外来部門の特性把握－急性期病院における外来患者の滞在構造に関する研究　その１－．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集D-2；2002. p.237-8.

山崎貴代，大竹さつき，中山茂樹，筧淳夫，小林健一．外来患者の院内滞在に影響を及ぼす建築・運営因子の分

析－急性期病院における外来患者の滞在構造に関する研究その２－．日本建築学会2002年度大会；2002. 8；金沢．学術講演梗概集E-1 ; 2002. p.239-40.

筧淳夫，井上由起子．回復期リハビリテーション病棟を持つ病院における病室病床規模に関する研究．第40回日本病院管理学会学術総会；2002. 11；北九州．病院管理2002 ; 39(Suppl) : 146.

井上由起子，筧淳夫．回復期リハビリテーション病棟の現状と課題．第40回日本病院管理学会学術総会；2002. 11；北九州．病院管理 2002 ; 39(Suppl) : 145.

朱庸善，長澤泰，筧淳夫，西村秋生．精神疾患患者の場所選択的行動,精神疾患患者の行動からみた物的環境の整備に関する研究．第40回日本病院管理学会学術総会；2002. 11；北九州．病院管理 2002 ; 39(Suppl) : 143.

小林健一，小菅瑠香．外来点滴センターの空間利用に関する研究．第40回日本病院管理学会学術総会；2002. 11；北九州．病院管理 2002 ; 39(Suppl) : 144.

筧淳夫．総論：医療廃棄物処理の基本的な考え方と処理の実際．第31回日本医療福祉設備学会；2002. 11；東京．同予稿集；2002. p.58.（ワークショップ）．

視聴覚資料やデジィタル媒体

山下哲郎，小林健一．病院40年の歩み．日本病院管理学会設立40周年記念企画．2002. ＜プレゼンテーションパネル＞

研修企画部
Department of Education Training Technology and Development

学術雑誌に発表した原著論文

土井由利子，上畑鉄之丞，畑栄一，簑輪眞澄，望月友美子，Ichiro Kawachi. 国立保健医療科学院における行動科学教育の取組み．日公衛誌 2002 ; 49(9) : 897-901.

岡田加奈子，川田知恵子，畑栄一，中村正和．受講した看護学生の「喫煙に関する授業」への受け止め．日本看護研究学会雑誌 2002 ; 25(1) : 57-68.

学術雑誌に発表した総説

畑栄一．合同臨地訓練1988-2001．公衆衛生研究．2002 : 51 : 27-30.

畑栄一，武村真治．合同臨地訓練の歴史と展望．公衆衛生研究．2002 : 51(1) : 2-7.

抄録のある学会報告

岩永俊博．地域の保健力を育てる－地域保健のパートナーシップ－．日本保健医療社会学会大会；2002. 保健医療社論集 2002 ; 13(特別号) : 26.

岩永俊博，渡辺志保，井上陽子，藤巻真理子，今井絢子．市町村サイズ；住民・行政の協働による目標設定．日本健康教育学会；2002. 日健教会誌 2002 ; 10(特別号) : 86-7.

川上桂子，山下三代子，熊越祐子，外山訓之，中窪優子，橋本由理，藤本真弓，森兼真理　加藤未歩，岩永俊博，畑栄一．地域づくり型保健活動を用いた健康づくりの取り組み，第１報～ワークショップ時の観察．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 395.

橋本由理，山下三代子，外山訓之，加藤未歩，中窪優子，藤本真弓，森兼真理，川上桂子，岩永俊博，畑栄一．地域づくり型保健活動を用いた健康づくりの取り組み，第２報～自記入式質問紙調査．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 395.

岩永俊博，山下三代子，橋本由理，川上桂子，畑栄一，朴俊錫，藤本真弓，森兼真理，中窪優子，加藤未歩，熊越祐子，外山訓之．地域づくり型保健活動を用いた健康づくりの取り組み，第３報～面接ききとり調査．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 396.

相馬幸恵，姉崎静記，岩永俊博．健康日本21市町村計画策定への保健所の支援についての一考察．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 434.

宮川清誇，岩永俊博，砂山圭子，橋本キヨ子，中島志津子，前田円，藤本真弓．当事者組織の形成と育成における保健師と保健所の役割～障害児を持つ親の回の事例から．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 505.

藤本真弓，岩永俊博，畑栄一，杉浦裕子，宮川清誇．より良い研修企画者のための達成道程表の検討と現状評価の試み～精神障害者通所施設職員研修を通じて～．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 526.

岡山美穂，畑栄一，福島富士子．中高年女性の更年期症状とその関連要因．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 676.

荒木美津子，鈴木晃，畑栄一．斜面地域における在宅要介護高齢者の外出実態とその要因．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 761.

八代樹依，高橋恭子，菅井敬已，松本泉，望月吉勝，畑栄一．保健師教育の実習におけるブラインド学習の効果．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 802.

谷畑健生，藤田利治，畑栄一，尾崎米厚，青山旬，川南勝彦．自殺死亡および関連指標を検討する．日本疫学会；2003. 1；福岡. J Epidemiol 2003 ; 13(1 Suppl) : 206.

その他学術報告（研究調査報告書含む）

岩永俊博，他．厚生科学研究費補助金「日本におけるヘルスプロモーション展開方法とその発展途上国での適応に関する研究」平成11～13年度研究報告書；2002.

Proceedings with Abstracts

Takeuti Y, Miki K, Eiichi Hata E, Junko Noda J. The mental health of Japanese wives living in Hawaii: The effects of environmental difference, especially of health and medical care. ACP-ASIM Chapter Scientific Meeting ; Mar 2002 ; Honolulu. Abstracts ; 2002. p.34.

Owang MM, Hyoi N, Hata E. A study on factors that are associated with condom use in the scope of behavior change for the prevention of HIV/AIDS among secondary school and university students in Nairobi, Kenya．第17回日本国際保健医療学会；2002. 8；神戸.

研究情報センター
Center for Information Research and Library

学術雑誌に発表した原著論文

馬替純二，古川智春，星裕子，酒井一夫，川上泰，緒方裕光．低線量率ガンマ線に対する生物応答．産業創造研究所紀要 2002 ; 22(4) : 8-11.

学術雑誌に発表した総説

土井徹．研究情報センターの役割と機能．保健医療科学 2002 ; 51(2) : 14-18.

緒方裕光．リスクの概念について．保健物理 2002 ; 37(2) : 104-7.

望月友美子．たばこ対策最前線．デンタルダイヤモンド 2002 ; 27(16) : 76-7.

土井由利子，上畑鉄之丞，畑栄一，簑輪眞澄，望月友美子，Kawachi Ichiro．国立保健医療科学院における行動科学教育の取組み．日公衛誌 2002 ; 49(9) : 897-901.

望月友美子．日本と世界のたばこ対策の現状　米国はどのように肺癌を減らしたか．日医師会誌 2002 ; 127(7) : 1009-14.

著　書

土井徹．メタ分析の手法と教育．鴨井久一，他編．EBMをめざした歯科医療．京都：永末書店；2002. p.7-11.

緒方裕光．基本医学統計学．EBM・医学研究・SASへの応用第3版．縣俊彦，編著．東京：中外医学社；2002. p.57-61.

抄録のある学会報告

土井徹，林謙治，小林秀資．少年犯罪の検挙人員と社会生活指標．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 347.

緒方裕光．放射線安全管理と科学的根拠について．第58回日本放射線技術学会総会放射線管理フォーラム；2002. 4；神戸.

緒方裕光．低線量放射線の生物学的リスクに関する統計学的考察．日本計量生物学会；2002. 5；京都.

緒方裕光，馬替純二，川上泰．低線量ガンマ線に対する細胞応答における線量率効果モデル．日本放射線影響学会第45回大会；2002. 9；仙台.

馬替純二，緒方裕光，星裕子，酒井一夫，川上泰．低線量・低線量率ガンマ線に対する細胞応答のモデル化．日本放射線影響学会第45回大会；2002. 9；仙台.

緒方裕光．生体影響リスクに関する新モデル．低線量放射線に対する適応応答に関する研究報告会；2002. 10；東京.

緒方裕光．健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する研究調査．第7回地域保健のためのインターネット研究会；2002. 11；東京.

緒方裕光．放射線リスク評価における数学的アプローチ．体質研究会放射線リスク検討会；2002. 12；京都.

荒川はつ子，熊江隆．持久的運動が抗酸化能に及ぼす影響に関する研究 第1報．酸化的ストレス下におけるWistar系ラットの肺胞洗浄液の変動．第12回体力･栄養･免疫学会；2002. 8；長崎．同学会講演集；2002. p.119-20.

熊江隆，荒川はつ子．持久的運動が抗酸化能に及ぼす影響に関する研究 第2報．幼若期からの運動負荷によるWistar系ラットの肺胞洗浄液の変動．第12回体力･栄養･免疫学会；2002. 8；長崎．同学会講演集；2002. p.121-2.

荒川はつ子，熊江隆．動物実験と疫学調査の成果の整合性について－第1報　ラットの週齢と人間の年齢の比較．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 329.

熊江隆，荒川はつ子．持久的運動が抗酸化能に及ぼす影響に関する研究 第3報　成熟期からの運動負荷によるWistar系ラットの肺胞洗浄液の変動．第61回日本公衆衛生学会；2002. 10. 23-25；さいたま．日公衛誌 2002 ; 49(10付) : 626.

加藤則子，望月友美子，北村邦夫，大井田隆．全国における思春期外来ならびに思春期相談窓口の設置状況に関する調査結果．第21回思春期学会；2002. 8；金沢.

その他学術報告（研究調査報告書含む）

土井徹．少年犯罪の統計的観察（平成7年―11年，県別）．少年犯罪と社会生活指標との統計的観察．厚生科学特別研究事業「思春期の暴力行為の原因究明と対策に関する研究」（主任研究者：小林秀資．）　平成13年度研究報告書；2002. p.153-206.

緒方裕光，山口一郎．国立機関原子力研究試験研究「無

機金属元素による放射線障害回復機構に関する研究」（研究代表者：緒方裕光.）平成13年度成果報告書；2002. 42集：p.66-1～66-4.

緒方裕光，山口一郎．食品中放射性核種による被ばく線量評価に関する研究－マウスにおける^{57}Co代謝実験に基づく線量評価－．第44回環境放射能調査研究成果論文抄録集；2002.

緒方裕光．EBMにおけるメタアナリシスに関する課題．厚生科学研究費補助金21世紀型医療開拓推進研究事業「日本におけるEBMのためのデータベース構築および提供利用に関する調査研究」（主任研究者：丹後俊郎.）平成13年度総括・分担研究報告書；2002. p.148-50.

緒方裕光，主任研究者．厚生科学研究費補助金21世紀型医療開拓推進研究事業「EBMを支えるリサーチライブラリアン養成についての調査研究」平成13年度総括・分担研究報告書；2002.

酒井由紀子，原直美，角家永，石川裕幸，裏田和夫，野添篤毅，磯野威．日本および米国における医療情報資源，情報機関，マンパワーの比較研究：臨床家編．厚生科学研究費補助金21世紀型医療開拓推進研究事業「日本におけるEBMのためのデータベース構築および提供利用に関する調査研究」（研究代表者：丹後俊郎.）平成13年度総括・分担研究報告書；2002. p.47-59.

丹後俊郎，石井秀夫，磯野威．EBMのためのデータベース・モデルの試み．厚生科学研究費補助金21世紀型医療開拓推進研究事業「日本におけるEBMのためのデータベース構築および提供利用に関する調査研究」（研究代表者：丹後俊郎.）平成13年度総括・分担研究報告書；2002. p.139-47.

油谷由美子，望月友美子，石井聡，石井剛，久保田信治．厚生科学研究費補助金政策科学推進研究事業「たばこ税増税の効果・影響等に関する調査研究」（主任研究者：油谷由美子）．平成13年度総括・分担研究報告書；2002.

望月友美子，加藤則子，福島富士子，井上孝代，北村邦夫，水嶋春朔，今成知美．厚生科学研究子ども家庭総合研究事業「思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究」（主任研究者：望月友美子）．平成13年度総括・分担研究報告書；2002.

Proceedings with Abstracts

Ogata H, Osaki S. Quantitative approach to natural radiation risk evaluation. The First Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection ; Oct 2002 ; Seoul.

Osaki S, Ogata H. Natural radiation for radiological risk communication. The First Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection ; Oct 2002 ; Seoul.

Magae J, Ogata H. Biological responses to low dose rate gamma radiation. International Symposium on Biological Effects of Low Dose Radiation ; Oct 2001 ; Rokkasho, Aomori Prefecture.